

泉大津市文化財調査報告20

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報 8

1990・3

泉大津市教育委員会



泉大津市文化財調査報告20

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報 8

1990・3

泉大津市教育委員会

例　　言

1. 本調査概報は、泉大津市教育委員会が、市内に所在する埋蔵文化財包蔵地内において、開発行為に先立って実施した発掘調査記録である。
2. 本調査は、泉大津市が国庫補助事業及び、大阪府補助事業（総額2,000,000円、国補助率50%、府補助率25%、市負担率25%）として、計画・実施したものである。
3. 本調査は下記の構成で実施した。

調査主体者 泉大津市教育委員会教育長 藤原勇三

調査担当者 泉大津市教育委員会社会教育課 坂口昌男

原島麻実

橋本富恵

調査員 辻川陽一

事務局 泉大津市教育委員会教育課

4. 本事業は、平成元年度事業として、平成元年4月10日に着手し、平成2年3月31日に完了した。

5. 本書の作成は、坂口・原島・橋本が分担して行った。

目 次

第1章 埋蔵文化財調査の状況.....	1
第2章 地理・歴史的環境.....	7
第1節 地理的環境.....	8
第2節 歴史的環境.....	9
第3章 発掘調査報告	12
第1節 池上・曾根遺跡.....	12
第2節 豊中遺跡.....	25
第3節 虫取遺跡.....	34
第4節 大園遺跡.....	39
第5節 板原遺跡.....	44
第6節 穴師遺跡.....	49
第7節 七ノ坪遺跡.....	52
第8節 穴田遺跡.....	57
第9節 菖田城跡.....	59
参考文献	64

插 図

第1図 遺跡分布図.....	8
第2図 池上・曾根遺跡調査地点図.....	12
第3図 池上・曾根遺跡第1地点掘削位置図.....	13
第4図 池上・曾根遺跡第1地点調査坑断面図.....	14
第5図 池上・曾根遺跡第1地点出土遺物.....	14
第6図 池上・曾根遺跡第2地点掘削位置図.....	15
第7図 池上・曾根遺跡第2地点調査坑断面図.....	16
第8図 池上・曾根遺跡第2地点遺物出土状況.....	16

第9図	池上・曾根遺跡第2地点出土遺物	18
第10図	池上・曾根遺跡第2地点出土遺物	19
第11図	池上・曾根遺跡第2地点出土遺物	20
第12図	池上・曾根遺跡第3地点掘削位置図	22
第13図	池上・曾根遺跡第3地点調査坑断面図	23
第14図	池上・曾根遺跡第4地点掘削位置図	24
第15図	池上・曾根遺跡第4地点調査坑断面図	25
第16図	豊中遺跡調査地点図	26
第17図	豊中遺跡第1地点掘削位置図	27
第18図	豊中遺跡第1地点調査坑南側断面図	27
第19図	豊中遺跡第1地点調査坑東側断面図	28
第20図	豊中遺跡第1地点構造図	29~30
第21図	豊中遺跡第1地点ピット18遺物検出状況	31
第22図	豊中遺跡第1地点出土遺物	32
第23図	豊中遺跡第1地点出土遺物	33
第24図	豊中遺跡第2地点掘削位置図	33
第25図	豊中遺跡第2地点調査坑断面図	34
第26図	虫取遺跡調査地点図	35
第27図	虫取遺跡第1地点掘削位置図	36
第28図	虫取遺跡第1地点調査坑断面図	37
第29図	虫取遺跡第2地点掘削位置図	38
第30図	虫取遺跡第2地点調査坑断面図	38
第31図	虫取遺跡第3地点掘削位置図	39
第32図	虫取遺跡第3地点調査坑断面図	39
第33図	大園遺跡調査地点図	40
第34図	大園遺跡第1地点掘削位置図	41
第35図	大園遺跡第1地点調査坑断面図	42
第36図	大園遺跡第2地点掘削位置図	43

第37図	大園遺跡第2地点調査坑断面図	43
第38図	板原遺跡調査地点図	44
第39図	板原遺跡第1地点掘削位置図	45
第40図	板原遺跡第1地点調査坑断面図	46
第41図	板原遺跡第2地点掘削位置図	47
第42図	板原遺跡第2地点調査坑断面図	47
第43図	板原遺跡第3地点掘削位置図	48
第44図	板原遺跡第3地点調査坑断面図	49
第45図	穴師遺跡調査地点図	50
第46図	穴師遺跡掘削位置図	51
第47図	穴師遺跡調査坑断面図	51
第48図	七ノ坪遺跡調査地点図	52
第49図	七ノ坪道路第1地点掘削位置図	53
第50図	七ノ坪道路第1地点調査坑断面図	54
第51図	七ノ坪道路第2地点掘削位置図	55
第52図	七ノ坪道路第2地点調査坑断面図	56
第53図	穴田遺跡調査地点図	57
第54図	穴田遺跡掘削位置図	58
第55図	穴田遺跡調査坑断面図	58
第56図	苅田城跡調査地点図	59
第57図	苅田城跡掘削位置図	60
第58図	苅田城跡調査坑断面図	60

插 表

表1	遺跡別届出件数	1
表2	遺跡別調査件数	2
表3	平成元年度調査一覧表	2
表4	昭和63年度調査一覧表(追加分)	6

図 版

- 1 豊中遺跡第1地点全景・ピット18
- 2 豊中遺跡第2地点調査坑・池上・曾根遺跡第2地点遺物出土状況
- 3 虫取遺跡第2地点調査坑・第3地点調査坑
- 4 大園遺跡第1地点調査坑・板原遺跡第1地点調査坑
- 5 板原遺跡第2地点調査坑・第3地点調査坑
- 6 穴師遺跡調査坑・七ノ坪遺跡第1地点調査坑
- 7 穴田遺跡調査坑・苅田城跡調査坑
- 8 池上・曾根遺跡第2地点出土品

第1章 埋蔵文化財調査の状況

平成元年度における埋蔵文化財発掘届出等件数及び調査件数は、表1、2のとおりである。埋蔵文化財発掘届出件数は、平成2年2月28日現在で183件と昨年度(161件)を上まわり、年々増加の現象にある。この内訳を見ると、個人住宅は昨年より16件、ガス・水道は7件と増加しており、全体の比率では、個人住宅建設は23% (昨年は16%)、ガス・水道工事は52% (同55%)となつておらず、合わせて75%と3/4を占めていて、個人住宅建設関連工事の増加を示している。その他4件はすべて宅地造成工事の届出である。それ以外はほぼ昨年なみである。調査内容を見ると、本年も掘削深度の浅い個人住宅建設や掘削面積の狭小なガス・水道工事が大半を占めるため、立会調査がほとんどである。又発掘調査も昨年より増加したが、そのうち予備調査である部分調査だけで終了してしまうものが大半であった。

本年度の届出件数に対する調査件数の比率は約43%と昨年度(37%)より少し上まわったが、依然として低い傾向にある。特に立会調査の指示に対する事業者の市教委への連絡件数の低さが大きな原因になっている。

表1 遺跡別届出件数

(平成元年4月1日～平成2年2月28日)

遺跡名	件数	内訳						
		個人住宅	ガス・水道	電話・電気	工場・倉庫	店舗・事務所	共同住宅	その他
池上・曾根遺跡	23	9	9	2	1	1	1	
豊中遺跡	33	4	21	2	1	2	3	
虫取遺跡	27	9	11	3	3		1	
大園遺跡	11	3	6			1		1
板原遺跡	18	2	11		3	1		1
池浦遺跡	23	6	12	1			4	
穴師遺跡	8	2	4		1		1	
七ノ坪遺跡	7	1	3				1	2
東雲遺跡	18	4	9	1	2	1	1	
薬師寺跡	1	1						
穴田遺跡	6		3	1		2		
助松遺跡	5		5					
千原城跡	1		1					
莉田城跡	2	1			1	1		
計	183	42 (23%)	95 (52%)	10 (5%)	11 (6%)	9 (5%)	12 (7%)	4 (2%)

本年度調査の実施日・地番・遺跡名・調査結果概略等は表3に示す。ただし、本書発行期日の都合上、平成2年2月28日までとする。なお前年度報告書未記載の分を表4で報告する。

表2 遺跡別調査件数

(平成元年4月1日~平成2年2月28日)

遺跡名	件数	内訳	
		立会調査	発掘調査
池上・曾根遺跡	19	4	5
豊中遺跡	16	14	2
虫取遺跡	9	6	3
大岡遺跡	6	4	2
板原遺跡	9	7	2
池浦遺跡	10	9	1
穴師遺跡	4	3	1
七ノ坪遺跡	5	3	2
東雲遺跡	6	6	
穴師薬師寺跡	1	1	
穴田遺跡	2	1	1
刈田城跡	1		1
計	78	58	20

表3 平成元年度調査一覧表

(平成元年4月1日~平成2年2月28日)

月日	調査地番	遺跡名	調査内容	備考(調査番号)
4・7	北豊中町3丁目979-29	豊中遺跡	立会調査	下水道管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
4・11	東豊中町1丁目65-1	豊中遺跡	立会調査	倉庫建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
4・12	300 板原312-3 313	虫取遺跡	発掘調査	倉庫建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められます。(8906)
4・17	984-25 984-26	豊中遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
4・17	東豊中町1丁目969-1	豊中遺跡	立会調査	倉庫建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
4・18 5・8	東豊中町2丁目959-3	豊中遺跡	発掘調査	倉庫建設工事に先立つ調査で、掘立柱建物跡ほかビット多数検出。繩文土器・土師器・須恵器出土(TO-34)
4・27	板原1288	板原遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
5・2	447-1 448-1	穴師遺跡	立会調査	水道管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
5・10	森町2丁目121~124	池上・曾根遺跡	発掘調査	寺院建設工事に先立つ調査で、遺構は認められず。瓦・土師器・陶磁器・須恵器出土。(IS-02)

月 日	調査地番	遺跡名	調査内容	備考(調査番号)
5・12	板原1316~1320	板原遺跡	立会調査	工場建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物は認められず。
5・15	宇多1046-50	虫取遺跡	立会調査	ガス管理設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
5・16	豊中952-2	苅田城跡	発掘調査	事務所建設工事に先立つ調査で、遺構は認められず。瓦・土師器出土(8907)
5・16	下条町4-5	東雲遺跡	立会調査	給水管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
5・16	豊中676	穴師遺跡	立会調査	給水管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
6・6	末広町1丁目376	大園遺跡	発掘調査	住宅建設工事に先立つ調査で、遺構は認められず。瓦・陶磁器出土(8908)
6・7	東豊中町2丁目959-3	豊中遺跡	立会調査	給水管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
6・13 6・15	曾根町1丁目31	池上・曾根遺跡	発掘調査	住宅建設工事に先立つ調査で、溝状遺構検出、土師器出土(8909)
6・14	下条町247-3	池浦遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
6・16	東豊中町3丁目5-12	豊中遺跡	立会調査	ガス管理設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
6・19	板原270-3	虫取遺跡	発掘調査	住宅建設工事に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器出土(8910)
6・26	穴田205-1	板原遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
6・27	北豊中町2丁目 ⁵¹⁷⁻¹ ⁵¹⁸⁻¹	七ノ坪遺跡	立会調査	給水管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
6・30	我孫子291-4	虫取遺跡	発掘調査	住宅建設工事に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器・瓦・器・瓦出土(8911)
7・21	豊中705	穴師遺跡	立会調査	給水管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
7・21	穴田205-1	板原遺跡	立会調査	給水管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
7・28	末広町	大園遺跡	立会調査	ガス管理設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
7・28	森町1丁目~2丁目	池上・曾根遺跡	立会調査	ガス管理設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
7・31	北吉中町1丁目	七ノ坪遺跡	立会調査	ガス管理設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
7・31	東豊中町2丁目4	豊中遺跡	立会調査	ガス管理設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。

月 日	調査地番	遺跡名	調査内容	備 考(調査番号)
8・2	東豊中町2丁目961-33	豊中遺跡	発掘調査	共同住宅建設工事に先立つ調査で、遺構は認められず。土器等出土。(8912)
8・7	池浦町4丁目137	池浦遺跡	発掘調査	体育館建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(8913)
8・7	北豊中町2丁目	七ノ坪遺跡	立会調査	給水管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
8・21	板原1069	板原遺跡	立会調査	店舗建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
8・25	尾井千原町 173-10 173-11	大園遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
9・1	尾井千原町 173-10 173-11	大園遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
9・12	北豊中町3丁目979-5	豊中遺跡	立会調査	排水管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
9・20	宮町139-1	池浦遺跡	立会調査	保健センター・建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
9・27	宇多1049-1	虫取遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
9・29	板原1007	板原遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
10・12	我孫子7-1	穴師塚師寺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
10・13	我孫子 616 617-2	板原遺跡	発掘調査	作業場建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(8914)
10・13	東豊中町1丁目967-36	豊中遺跡	立会調査	給排水管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
10・14	東豊中町101-8	豊中遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
10・19	下条町15-22	池浦遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
10・19	下条町4-5	東雲遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
10・19	板原348-32	虫取遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
10・20	東雲町81-3	東雲遺跡	立会調査	倉庫建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
10・24	東豊中町1丁目967-36	豊中遺跡	立会調査	浄化槽埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
10・27	末広町1丁目376	大園遺跡	立会調査	汚水管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。

月 日	調査地番	遺跡名	調査内容	備考(調査番号)
10・28	池園町15-33	池上・曾根遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
11・6	東豊中町1丁目110-5	豊中遺跡	立会調査	給水管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
11・10	寺町101-1	池浦遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
11・14	池浦町4丁目300-5	池浦遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
11・17	森町2丁目68-1, 68-3	池上・曾根遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
11・21	綾井56-1	大岡遺跡	発掘調査	店舗建設工事に先立つ調査で、遺構は認められず。土器出土。(8915)
11・27	下条町168-18	池浦遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
12・5	宇多1051-4	虫取遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
12・6	北豊中町3丁目967-36	豊中遺跡	立会調査	給水管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
12・6	虫取51-1	虫取遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
12・6	下条町614-60	東雲遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
12・8	森町2丁目192-1	池上・曾根遺跡	発掘調査	住宅建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(8916)
12・15	下条町11-21	池浦遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
12・16	東雲町9	東雲遺跡	立会調査	給排水管理設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
12・18	曾根町2丁目201-1,-2 202, 203	池上・曾根遺跡	発掘調査	共同住宅建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(8917)
12・19	板原348-23	虫取遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
1・9	豊中 668-3 669-1	穴師遺跡	発掘調査	共同住宅建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は検出されず。(9001)
1・22	穴田73-1	板原遺跡	立会調査	給水管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
1・29	森町2丁目14-8	池上・曾根遺跡	立会調査	給水管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
1・29	板原114-3	板原遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。

月 日	調査地番	遺跡名	調査内容	備考(調査番号)
2・2	宮町41-1	池浦遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
2・6 2・10	曾根町1丁目34	池上・曾根遺跡	発掘調査	自家用倉庫建設に先立つ調査で、遺構は検出されず。瓦・瓦器・土師器出土(1S-03)
2・8	我孫子61-6	穴田遺跡	発掘調査	事務所建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は検出されず。(9002)
2・9	我孫子628	板原遺跡	発掘調査	住宅造成工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は検出されず。(9003)
2・16	下条町168-18	東雲遺跡	立会調査	給水管路設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
2・21	北豊中町1丁目547	七ノ坪遺跡	発掘調査	共同住宅建設工事に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器・須恵器出土(9004)
2・22	寺町79-24	池浦遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
2・27	東豊中町2丁目3-15	豊中遺跡	立会調査	ガス管路設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
2・27	北豊中町2丁目503-1 504	七ノ坪遺跡	発掘調査	駐車場造成工事に先立つ掘削で、遺構は認められず。土師器出土(9005)

表4 昭和63年度調査一覧表(追加分)

(平成元年3月1日~3月31日)

月 日	調査地番	遺跡名	調査内容	備考(調査番号)
3・1	北豊中町2丁目13-8	豊中遺跡	立会調査	給水管路設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
3・1	板原1007	板原遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
3・6	池浦町2丁目283-1	虫取遺跡	立会調査	倉庫建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
3・7	穴田90	板原遺跡	発掘調査	倉庫建設に先立つ調査で、遺構は検出されず。土師器・瓦器出土(8904)
3・7	東雲町66-1	東雲遺跡	立会調査	給水管路設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
3・7	我孫子609	板原遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
3・8	北豊中町2丁目506	七ノ坪遺跡	立会調査	ガス管路設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
3・22	東豊中町1丁目110-3	豊中遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
3・23	北豊中町2丁目517-1 518-1	七ノ坪遺跡	発掘調査	倉庫建設に先立つ調査で、遺構・遺物等は検出されず。(8905)

第2章 地理・歴史的環境

第1節 地理的環境

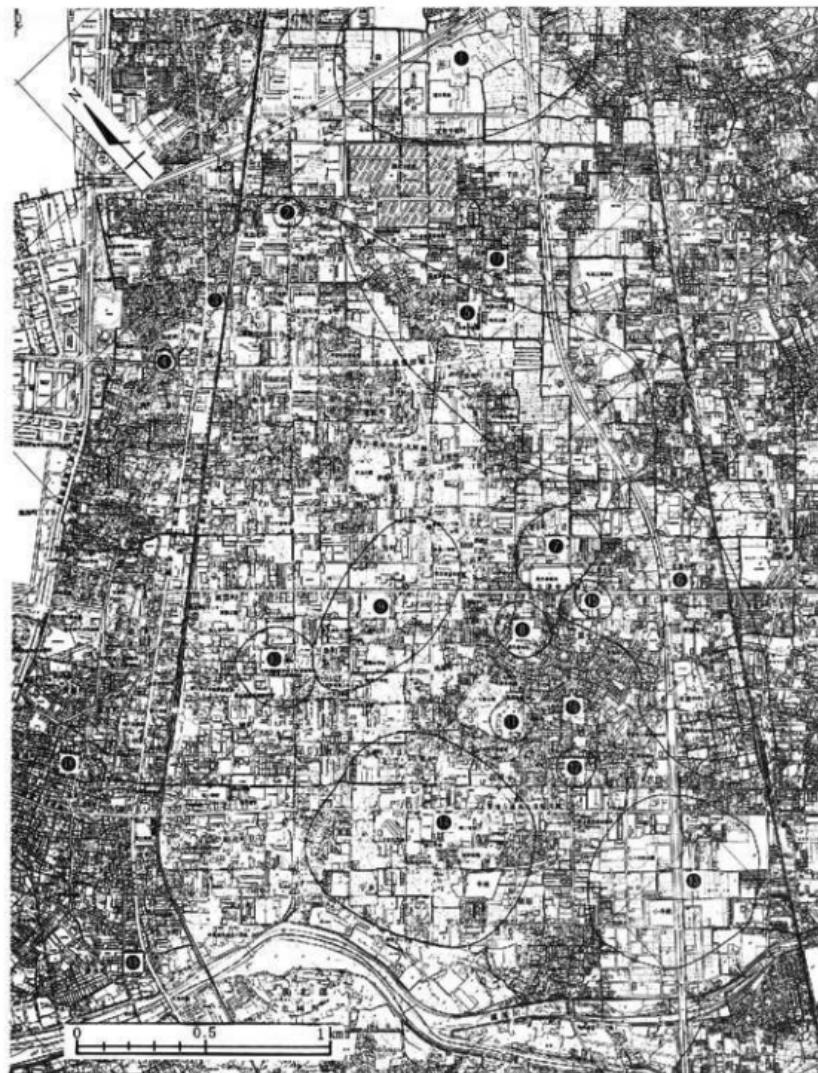
大阪府泉大津市は、大阪平野南部（泉州地域）の海岸部に位置する。市の西側は大阪湾に面し、北側は高石市、東側は和泉市、南側は大津川を挟んで泉北郡忠岡町と接している。そして、低位段丘、海岸砂礫堆及び後背低地の上に立地し、山間部を有しない。市の面積は 11.96 Km²、人口は68,647人（平成2年3月1日現在）と小規模な存在であるが、昭和17年には、府下で7番目に市制が施行され、早くから開けた地域でもある。

市を南北に横切って、私鉄南海電鉄本線とJR阪和線が約2km離れてほぼ平行に走り、大阪と和歌山を結んでいる。南海線では北側より、北助松・松之浜・泉大津の3駅があり、急行の停車する泉大津駅は、難波駅より所用時間約20分と近距離にある。

この鉄道と平行して、市内西部の海岸沿いを、府道堺阪南線と大阪臨海線が、又、東部を国道26号線（旧第2阪和国道）の道路が延びている。さらに市内の東西を結ぶ道路として、府道松之浜曾根線・松原泉大津線・泉大津粉河線・市道泉大津中央線があり、道路網は縦横にめぐっている。泉大津市の市街地は、南海電鉄本線と府道堺阪南線に沿って、明治以降、商工業用建物と住宅とで形成されてきた。市の東部は、水田地帯が広がり、農村集落がみられたが、昭和45年に大阪で開催された日本万国博覧会を契機に、商業都市大阪のベッドタウンとして泉州地域が注目され、宅地開発の波が押し寄せた。更に、第2阪和国道の建設と、それに伴う土地区画整理事業が実施され、市街地化が進行している。こうして市域全体が市街化区域となり、市内に20数個所あった溜池も、その大半が埋め立てられ、住宅・団地・工場・公園・学校・公民館などの用地に転用されている。

この地域の地場産業の一つに、毛布・ニットを中心とする織物工業があり、特に毛布の生産高は全国の96%を占めている。又、近年、海岸側が堺・泉北臨海工業地帯として埋め立てられ、工場や倉庫が建ち並び、九州小倉と結ぶカーフェリーが発着するなど、港湾の都市としても発展しつつある。

さらには、泉州沖の関西国際空港建設に伴って、空港貨物基地誘致、産業廃棄物処理のフェニックス計画や、泉大津駅東地区市街地再開発事業などで新たな発展を目指している。



1. 大園遺跡 2. 森遺跡 3. 牛滝塚 4. 助松遺跡 5. 池上曾根遺跡 6. 豊中遺跡 7. 七ノ坪遺跡
 8. 穴師遺跡 9. 池浦遺跡 10. 東雲遺跡 11. 穴師粟野寺跡 12. 穴田遺跡 13. 板原遺跡 14. 虫取遺跡
 15. 大福寺跡 16. 菊田城跡 17. 千原城 18. 真鍋城跡 19. 城の山

第1図 遺跡分布図

第2節 歴史的環境

泉大津市が所在する泉州地域は、大阪平野の南部に属し、気候は温暖であったため古くから生活の場・生産の場として開けていた。それは、市内各所に所在する遺跡の数からも首肯される。現在、市内には、大園、豊中、板原、池上・曾根、池浦、虫取、東雲、七ノ坪、穴師、穴田といった集落遺跡や、穴師薬師寺、大福寺などの寺院跡、又、考古学的に確認されていないが、千原城、刈田城、真鍋城、城の山等の城址が先人の足跡として残されている。これらの市内の遺跡を中心に、周辺の遺跡にも言及しながら、この地域の歴史的環境の概略を以下に述べていく。

—旧石器時代—

泉大津市内では、現在のところ旧石器時代に属する遺物は発見されていない。泉大津市・和泉市・高石市の3市にまたがる大園遺跡の段丘上より、後期旧石器時代のナイフ形石器と、^①旧石器終末期より縄文時代草創期・早期の有舌尖頭器が出土している。又、隣接する和泉市の大床遺跡からは、サヌカイト製のナイフをはじめ、石核・剥片約30個が検出された。^②和泉市伯太北遺跡・和氣遺跡、堺市野々井遺跡・百舌鳥木町遺跡、岸和田市西山遺跡・琴山遺跡・葛城山頂遺跡・海岸寺山遺跡等で、旧石器時代に属すると思われる石器や剥片の出土がある。以上の遺跡は、段丘上や丘陵上に立地するという特徴をもっており、人々の行動範囲を示している。

—縄文時代—

泉大津市においては、現在のところ縄文時代の明確な遺構は検出されていないが、板原遺跡では、後期の中津式を伴う自然流路や福田K II式の遺構面、晚期の溝状遺構やピット等が報告されている。^③又、豊中遺跡でも埋積谷の旧河道内より中期末の土器片が発見されるなど、縄文人の存在を窺わせる。虫取遺跡では、晩期に属する土器が、弥生時代前期中頃の土器と共に出土し、^④縄文文化から弥生文化への過渡期の様子を示す好資料を与えてくれた。

—弥生時代—

泉大津市池浦遺跡は、市内で最も古い弥生時代の遺跡の一つで、前期中段階に形成された集落であり、低位段丘上に位置し、居住区は人工によるV字溝で限定されていたと思われる。この集落

は、短期間のうちにその生命を失ったようで、中期以降の土器は発見されていない。虫取遺跡も人工のV字溝が検出され、第1様式新段階から第2様式の土器が、晚期の縄文土器を伴って大量に放棄されていた。^⑦ 和泉市池上町から岸大津市曾根町にかけての池上・曾根遺跡は、弥生時代の全期間を通じて、集落の生成・発展過程を知らしめる遺跡である。それは、前期に集落が形成され、中期にはその周囲を環濠が囲繞し、後期になると分散の傾向を示し、やがて古墳時代の集落へと移行する様子が発掘調査で明らかにされた。又、出土品は土器・石器・木器等歴史的な量で他地域の人々との交流を示すものもある。以上の重要性から昭和51年に史跡指定がなされた。この時代の水田は、七ノ坪遺跡によって、畦畔の規模や取水方法等が知られる。他に遺跡としての実態^⑧は不明であるが、中期の泰館が出土した穴師小学校校庭遺跡や、有鉤銅鏡を出土した古池遺跡^⑨^⑩（昭和61年度より豊中遺跡に含まれる）、砂丘遺跡かと思われる助松遺跡などがある。

— 古 墳 時 代 —

泉大津市においては現在、古墳は存在しないが、古い地形図によると塚らしいものが見られ、かつては存在していた可能性もある。又、東雲遺跡からは埴輪片が出土しており、古墳もしくは祭祀遺跡との関連が考えられる。

集落遺跡は、昭和50年代に平野部で行なわれた道路建設に先立つ調査で、急激に発見例が増加した遺跡である。泉大津市における遺跡も例外ではない。古墳時代初期に属するものとして、豊中遺跡・七ノ坪遺跡・東雲遺跡があり、堅穴住居で集落は構成されている。七ノ坪遺跡は、この住居と共に、弥生時代からの伝統的墓形態である方形周溝墓や土塙墓も発見されており、高塚墳墓の被葬者と階層の差異によるものか、あるいは文化の相違に由来するものなのか問題となるところである。この外、水田跡も検出され集落の一つのまとまりを示している。又、遺物散布地として、板原遺跡・虫取遺跡・助松遺跡・穴師遺跡などがある。

— 飛鳥・白鳳・奈良・平安時代 —

豊中遺跡から、平安時代後半に属する方形井戸が1基検出され、井戸内には「田井」「田井殿」と高台部内側あるいは体部外面に墨書きされた内面黒色土器や、灰釉陶器・土鍋・土師器杯が埋められ、井戸の機能は失なれていた。^⑪

白鳳時代創建とされる泉穴師神社、その神宮寺として栄え、崇敬を集めた穴師薬師寺の跡や豊中遺跡からは、平安時代末以降の瓦が出土している。穴師薬師寺は、宝龜年中に大津浦に流れつ

いた木像の薬師如来を、穴師村に草堂を建てて安置したのに始まり、平安時代の中頃に大規模となり、代々の天皇より繪旨院宣が下された寺院である。基壇が発掘され、「穴師堂」銘瓦や宋錢が出土している。豊中遺跡内には「大福寺」の小字名が残り、これは江戸時代まで存続した寺院である。板原遺跡からは平安時代の掘立柱建物が検出されている。遺物散布地として、穴師遺跡や虫取遺跡、大園遺跡があげられる。

— 鎌倉時代・室町時代 —

泉大津市内における中世の遺跡として、まず東雲遺跡があげられる。この遺跡は平安時代に始まり、鎌倉時代初期に至る掘立柱建物で構成される集落遺跡である。古池遺跡から、鎌倉時代の倉庫等の掘立柱建物、板原遺跡からも同時代の掘立柱建物 7 棟が、又、七ノ坪遺跡からも小溝群とピットが発見されている。豊中遺跡においては、土釜（羽釜）や曲物を井筒とした井戸、河原石組の井戸などから、瓦器椀、瓦質羽釜、瓦質練鉢、瓦、土師質小皿などの遺物も多数出土している。しかし、建物跡となると、特に鎌倉時代後半から室町時代にかけては、今のところ 1 例も確認されていない。その理由は、地面の削平によるものなのか、建物の基礎構造が痕跡を残さないものなのかのいづれかと思われるが、断言はできない。穴田遺跡は、土釜を積み上げた井戸の発見によって昭和31年に嵩知された遺跡であるが、その実態は不明である。遺物散布地として、虫取遺跡・穴師遺跡・池上・曾根遺跡などがある。

第3章 発掘調査報告

第1節 池上・曾根遺跡

I 調査に至る経過

池上・曾根遺跡は、和泉市池上町に於て、水田やその土を使用した土塁に、石器や土器片が見られることで、古く明治時代より有識者には知られていた。又、戦後市営住宅の建設や府営水道



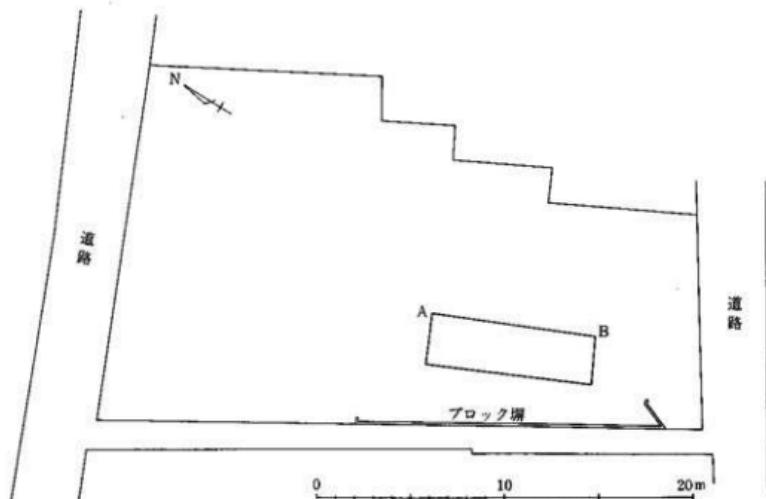
第2図 池上・曾根遺跡調査地点図

の水道管理設工事、光明池水路改修などの工事により、広範囲にわたる弥生時代の集落跡であることが広く知られるようになった。^⑨しかしいずれも立会による緊急調査であって、本格的な発掘調査が実施されたのは、昭和44年～46年にかけての第2阪和国道（現国道26号線）建設に先立つての調査からである。その結果は、かねて考えられていた弥生集落の定説よりも、規模・内容ともに大きく上まわり、その認識を書き換える必要を生じせしめたものである。それは、弥生時代前期に於ける集落の生成から発展への過程、及び古墳時代への移行の様子を明らかにしただけでなく、生活や祭祀をうかがわせる資料をも提供した。その後の調査により、遺跡の範囲は和泉市ののみでなく、泉大津市曾根町にまで伸びていることが判明した。

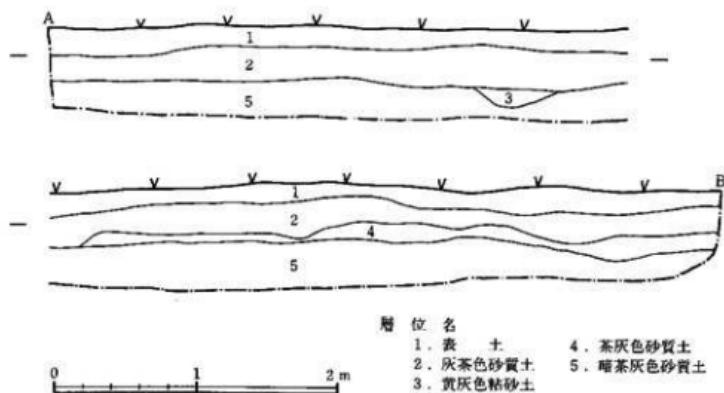
本遺跡は、その重要性から多数の人々の保存に対する熱意で、昭和51年4月26日、国の史跡に指定され、泉大津市・和泉市により、永久保存のため徐々に公有地化が進められ、有効利用へと計画がなされている。又、その周辺部に於ても、府教育委員会をはじめ、両市教育委員会に於て、発掘調査が実施され、遺跡の様子がより明らかにされつつある。

II 調査結果

第1 地点(森町2丁目121-124 調査番号IS-02)



第3図 池上・曾根遺跡 第1地点掘削位置図



第4図 池上・曾根遺跡 第1地点 調査坑断面図

寺院建て替えに先立つ調査である。敷地面積は、493.47m²である。

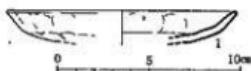
敷地の中央やや東寄りに長さ8.8m、幅2.8m、深さ0.6mの調査坑を設定し、重機による掘削ののち、人力によって、壁面・床面を削り、壁面・床面観察を中心とする調査を実施した。基本的な層序は上部から、表土10~20cm、灰茶色砂質土10~30cm、暗茶灰色砂質土に至る。西端では、灰茶色砂質土の下に茶灰色砂質土が2~16cmの厚さで認められる。遺物は、瓦、土師器、陶磁器、須恵器が出土し、灰茶色砂質土からは土師器小皿(1)が検出された。

当該地には、現在元禄三年(1690年)創建と伝えられる浄土宗西蓮寺が存在するが、小字名は光泉寺となっている。これは、同名の寺院の存在に因んだ地名で、現在の寺の前身とも考えられるが、光泉寺に関する伝承、史料等は見当らず、今回の調査でも、これを裏付ける遺構・遺物の検出は認められなかった。

遺 物 (第5図)

遺物は、灰茶色砂質土より瓦片、暗茶灰色砂質土より土師器、陶磁器、須恵器等が出土したが、いずれも小破片で、図示し得るのはわずか1点のみである。

(1) は平らな底部をもつと思われる土師器小皿で、やや丸みをもちながらゆるやかなカーブを描いて立ち上がる。内外面ともに指押えがみられる。



第5図 池上・曾根遺跡
第1地点出土遺物

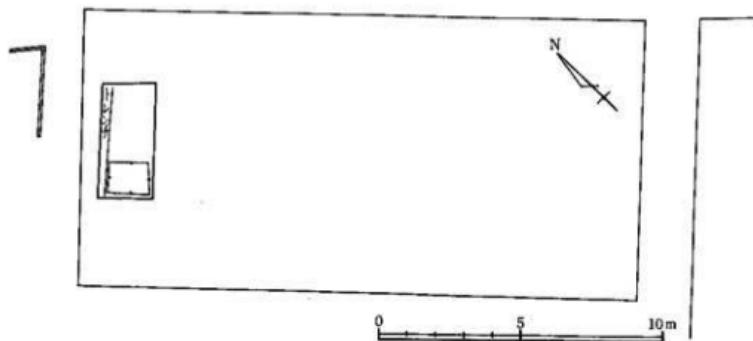
第 2 地 点(曾根町1丁目31、調査番号8909)

個人住宅建設工事に先立つ調査である。敷地面積は、154.81m²である。

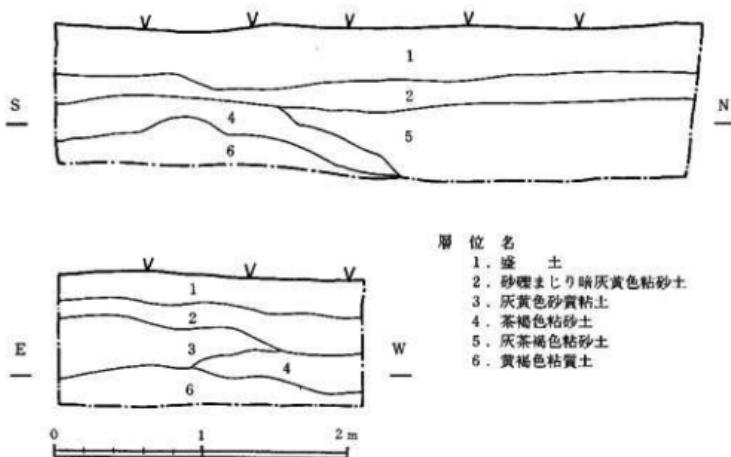
敷地内の北西端に幅2m、深さ0.8m、長さ4mの規模の調査範囲を設定し、人力により掘削を実施した。

層序は、上部から盛土30~40cmで、下層の砂礫混り暗灰黄色粘砂土10~28cmは、西方向に行くにしたがい厚くなる。その下は東側で灰黄色砂質粘土約35cmが見られたが、徐々に薄くなり、茶色粘砂土がその下にもぐり込むように堆積していた。しかし、この茶褐色粘砂土も北へ行くにしたがって、レベルを下げながら薄くなる。その上部に灰茶褐色粘砂土が45cm以上堆積している。そして最下層には、黄褐色粘質土がいわゆる地山として見られる。全体的に層序は、西へ行くにしたがい、又北方向へ向かうにしたがい、徐々にレベルが下がり、旧地表の斜面にあたる部分と思われる。この調査坑の北部分、すなわち斜面上に古式土師器の甕・壺等があたかも放棄されたような状態で発見された。

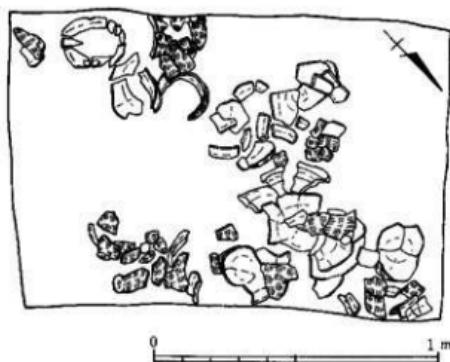
当該地の東方向には、弥生時代全時期にわたる大集落遺跡の史跡池上・曾根遺跡が存在する。しかし、今回の調査では、弥生時代の遺物は検出されていない。調査範囲が狭いので、結論は出せないが、このことは、弥生時代の集落が拡散する傾向にあった古墳時代になって、この付近にも集落が営まれたことを示している。地形的にみると、弥生時代のイケガミ村は微高地に形成されていたのが、古墳時代になると、その周辺の縁辺部にも集落がつくられるようになってきたと考えることができる。



第6図 池上・曾根遺跡 第2地点掘削位置図



第7図 池上・曾根遺跡 第2地点 調査坑西側(上)、南側(下)断面図



第8図 池上・曾根遺跡 第2地点器物出土状況

遺物（第9図・10図・11図）

出土遺物は、古墳時代前期の土師器甕、壺、高杯である。

原則として器種別に分類し、個々の法量、胎土、色調、調整、出土場所(層)については遺物観察表に示した。

(1) 甕 (2~26)

出土遺物37点中25点が甕である。そのほとんどは、外面にタタキ目が施され、土器作成時の継ぎ目痕が顕著にみられる。

2~4は小型甕である。口縁部は比較的ゆるやかに屈曲し、口縁端部は上方にわずかにつまみ上げている。体部は張りが弱い。外面調整はタタキ目、内面調整は指揮えと板状ナデである。

5、8は口縁部内面が垂直に近い面をもち、口縁端部は上方につまみ上げている。外面調整はタタキ目の後、ハケ日を施す。

6、9は口縁部が「く」字状に屈曲し、口縁端部は上方にわずかにつまみ上げている。

7、10、13はゆるやかに外反する口縁部で、口縁端部は丸みをもつ。

11は「く」字状に屈曲した口縁部で、外面が内窵している。口縁端部は若干面をもち、丸く整えている。底部は平坦でしっかりしており、底部外面にタタキが施されている。

12はゆるやかな「く」字状の口縁部で、口縁端部は外下向につまみ出している。

14は口縁部が「く」字状にやや内窵し、口縁端部は上方につまみ上げている。

15、16は口縁部がやや厚みをもちながら外反し、平坦な端面を外側につくる。14、15はいずれも最大径を口縁部にもつ。

17は口縁部の屈曲部がやや面をもち、ゆるやかに外反しながら、外方向にわずかに折れ曲がる。口縁部は面をもつが、比較的丸く整えられている。

18も口縁部がゆるやかに外反しながら、外方向にわずかに折れ曲がる。口縁端部は厚みがあり、面をもつ。

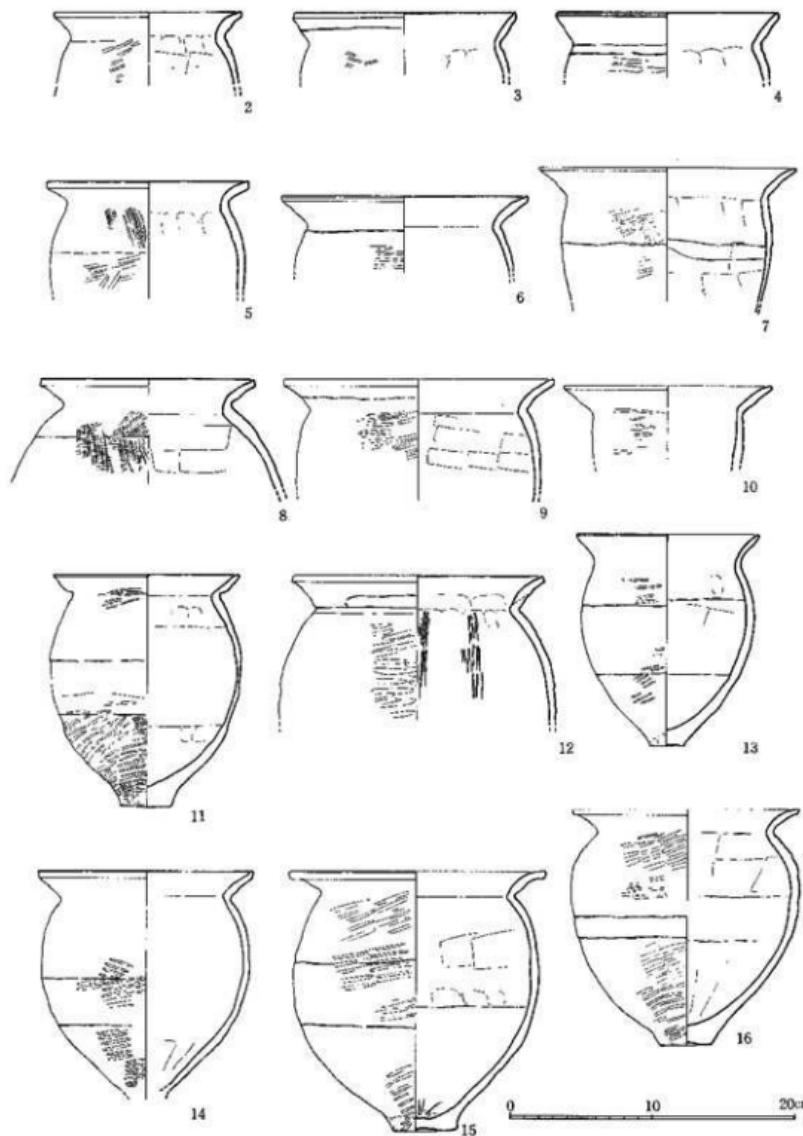
19、20は口縁部がゆるやかな「く」字状で、口縁部は上方向にわずかにつまみ上げる。

21は口縁部の屈曲がゆるやかで、外面がわずかに内窵しながら立ち上がる。口縁端部はやや面をもつ。

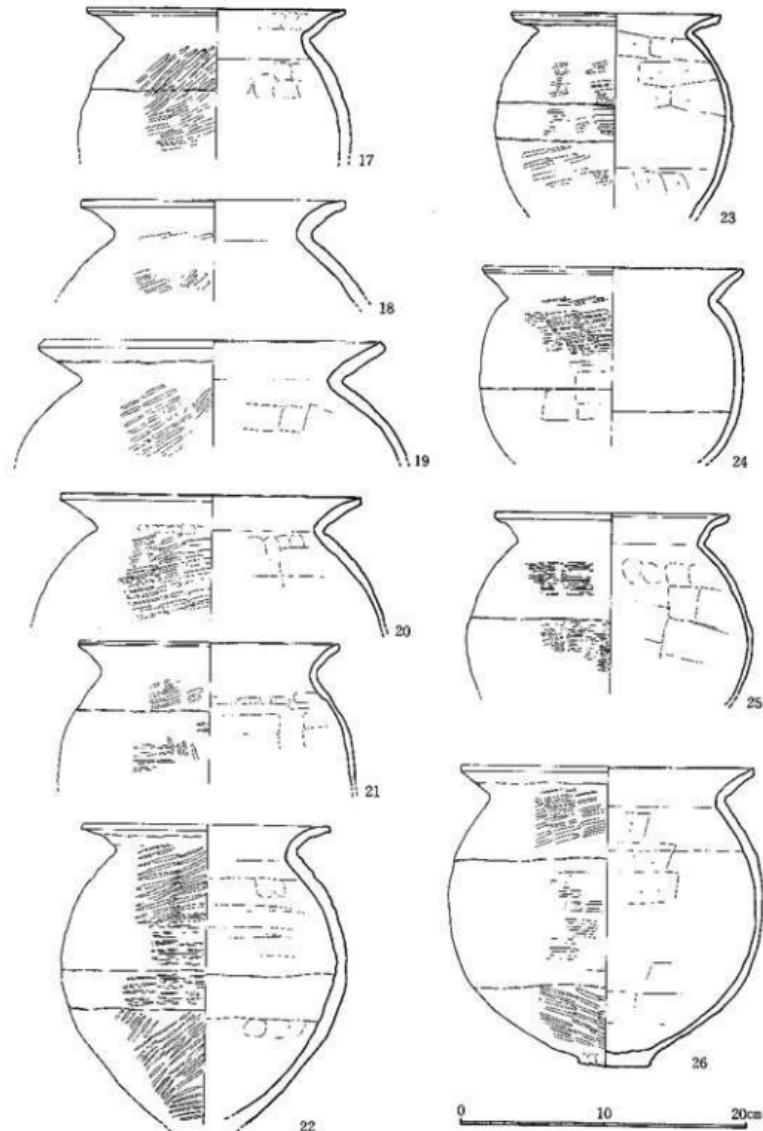
22は口縁部がゆるやかに屈曲し、外面にわずかに彫みをもつ。口縁端部は外下向にやや折れ曲がり、面をもつ。体部外面にはタタキ目が顕著にみられる。

23~26は口縁部が比較的短く、体部は球形に近い丸みをもつ。

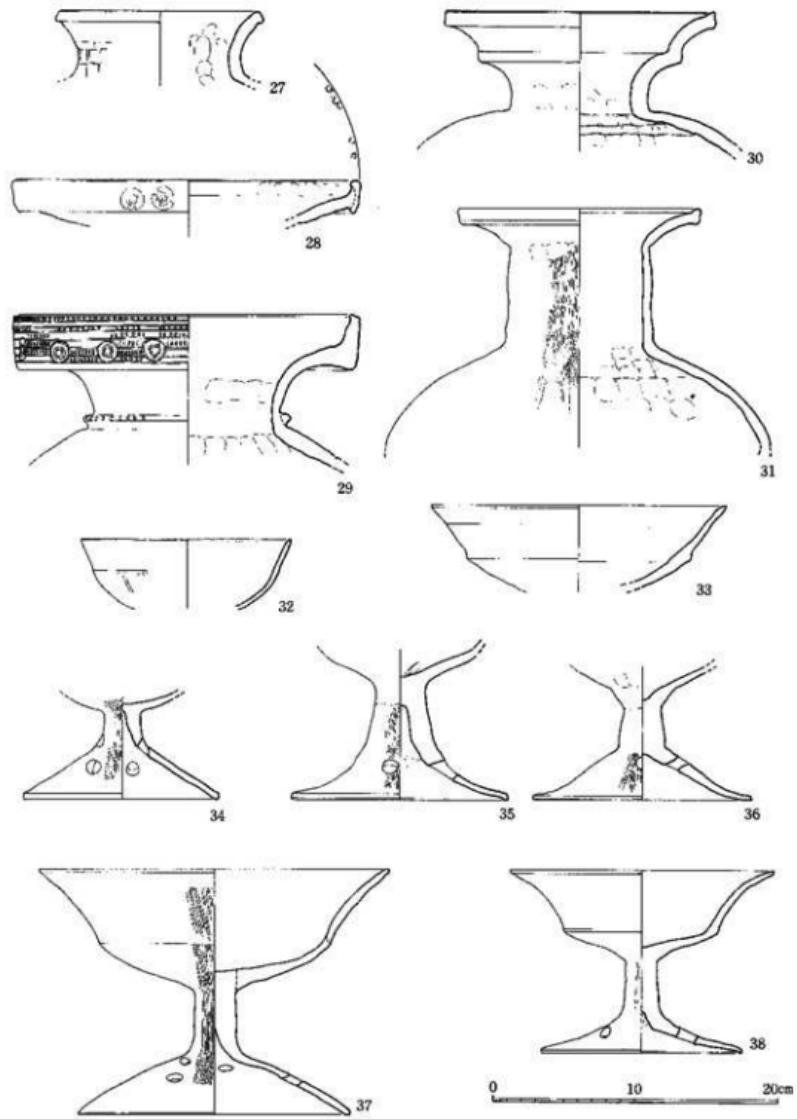
23は口縁部が大きく外反している。口縁端部は厚みがあり、外方に面をつくる。



第9図 池上・曾根遺跡 第2地点出土遺物



第10図 池上・曾根跡 第2地点出土遺物



第11図 池上・曾根遺跡 第2地点出土遺物

24は屈曲部がやや面をもち、口縁端部は上内向にわずかにつまみあげている。外面はタタキが施されているが、体部中ほどには板状のナデがみられる。

25は屈曲部内面にやや面をもつ。口縁部はわずかに内弯した後、外反し、弱い稜をつくり外上に向延びる。口縁端部は厚みをもつが、比較的丸みをもって整えられている。

26は、屈曲部に強い稜をつくるが、その後、外面に膨みをもちながら、ゆるやかに外反する。口縁端部は上方向につまみ上げている。外面はタタキが施され、内面は板状ナデがみられる。

(2) 壺 (27~31)

27はゆるやかに外反する口縁部をもち、口縁端部は外側に肥厚する。外面には比較的細かな板状ナデがみられる。

28、29は、口縁部端面に竹管円形浮文が周る。口縁部はゆるやかに外反し、その後ほぼ垂直に立ち上がる。28の口縁端部は面をもつが、丸みをもって整えられている。29の口縁端部は内方向につまみ出されており、外面は竹管円形浮文とともに、沈線、割目が施されている。

30はいわゆる二重口縁で、口縁部は大きく外反する。口縁端部は外方向に面をもち、外下方にわずかにつまみ出す。内面は、指押え痕が頗著である。

31はわずかに膨みをもつ頸部からラッパ状に外反し、端部で上方向に面をもつ。外面は縱方向にヘラ磨きが施されている。

(3) 高 坯 (32~38)

32、33は坯部である。

32の下半部はわずかに内弯しながら外上方に延び、上半部との境に弱い稜をもつ。外面は縱方向のヘラ磨きが施されている。

33の下半部は内弯気味に外上方に延び、上半部との境に段を有す。上半部はゆるやかに外反している。

34~36は高杯脚部である。

34は中空の脚柱部から外下方向へ直線状に延び、裾部でラッパ状に広がる。上段に2個、下段に4個の円形透し孔がある。外面は、縱方向に丁寧なヘラ磨きが施されている。

35は中空の脚柱部から外下方向にゆるやかに延び、裾部で外反する。裾端部は下方向につまみ出す。外面は縱方向にヘラ磨きが施されている。

36は脚柱部にやや膨みをもち、裾部でラッパ状に広がる。裾部上方四方に円形透し孔がある。外面にはハケ目が施されている。

37の坯部は、平らで狭い底部からやや内弯気味に大きく外上方へ延び、上半部との境にわずかに段を有す。脚柱部はほぼ直線状で、裾部はやや内弯しながら広がる。上段・下段に3個ずつの

円形透し孔がある。外面にはヘラ磨きが施されている。

38の環部は、狭い底部から外上方へわずかに外反しながら伸び、上半部はゆるやかに外反する。脚柱部はわずかに膨みをもち、樋部は内弯気味に広がる。樋端部は、丸みをもちらながらわずかに下方向につまみ出す。外面は柱状部にハケ目が施される。

第 3 地 点(森町2丁目192-1 調査番号8916)

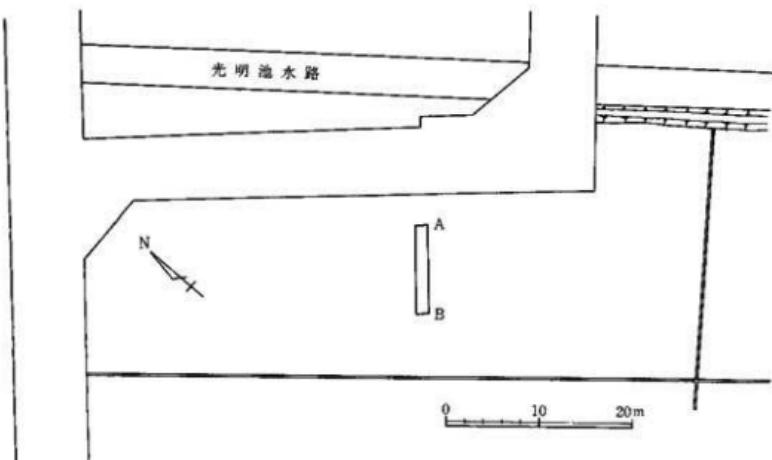
個人住宅建設に先立つ調査である。敷地面積は、677m²である。

敷地の北西部に幅0.7m、長さ9.8m、深さ52cmの調査坑を設定し、重機による掘削の後、人力により、壁面・床面を割り、その後、壁面・床面観察を中心とする調査を実施した。

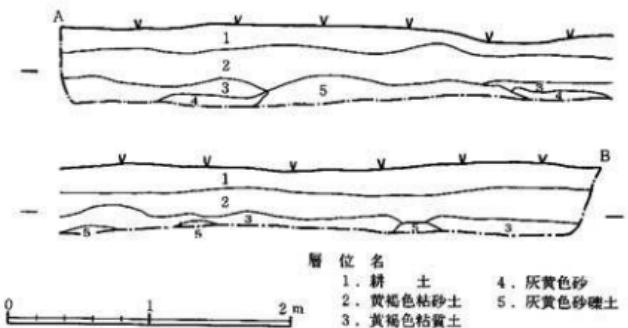
基本的な層序は、上部から耕土8~20cm、黄褐色粘砂土10~26cm、黄褐色粘質土2~14cmで、黄褐色粘質土の下には、灰黄色砂と灰黄色砂礫上がブロック状にみられる。

当該地北方では府教育委員会による調査が実施され、占墳時代以降の集落が確認されており、当該地点もそれに関連する遺構の検出が予想されたが、当該地の砂利層の堆積より、旧地形は河川自然堤防の一部を形成しているものと思われる。

遺構・遺物は認められず、写真撮影、断面図を作成して、調査を終了した。



第12図 池上・曾根遺跡 第3地点掘削位置図



第13図 池上・曾根遺跡 第3地点 調査坑断面図

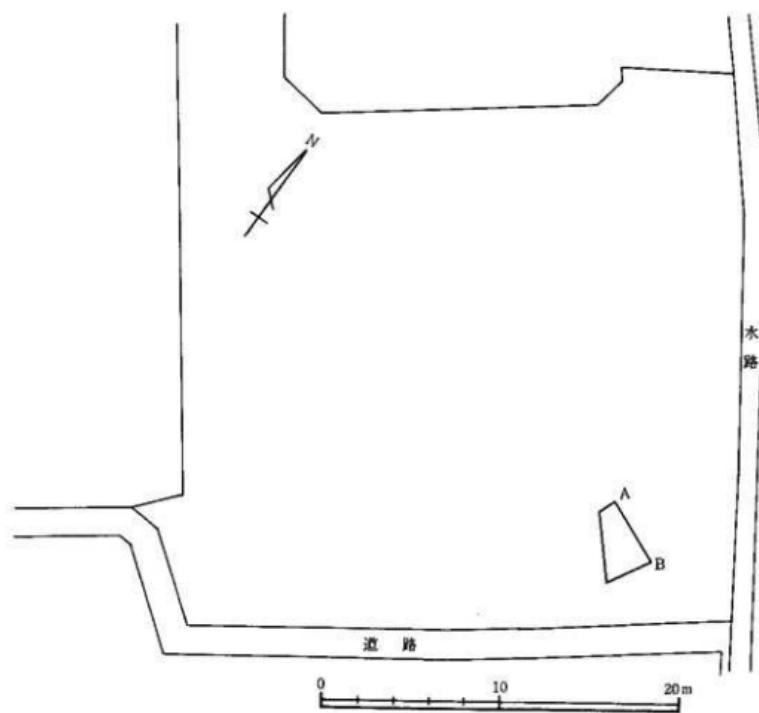
第 4 地 点(曾根町2丁目10、201-2、202、203、調査番号8917)

共同住宅建設に先立つ予備調査である。敷地面積は、920.40m²である。

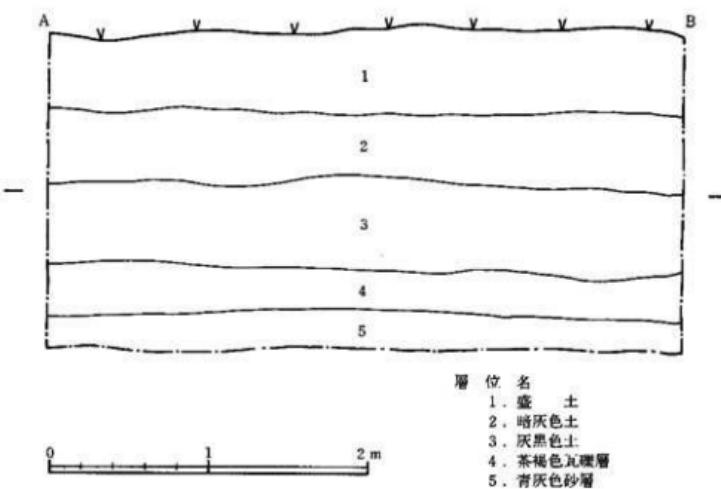
敷地内の南東寄りに、幅2.2m、深さ2m、長さ4.1mの規模の調査坑を重機にて掘削し、断面観察を中心とした調査をした。

層序は上部から、盛土約50cm、暗灰色土約50cm、灰黑色土約50cm、茶褐色瓦礫層約30cm、青灰色砂層20cm以上となり、青灰色砂層からの湧水が激しかったので、これ以上の掘削は行なわなかった。遺構・遺物等は検出されなかった。

当該地は曾根神社の南西側にあたり、史跡指定地の隣接地でもあるため、当初は遺構・遺物等の存在を予想したのであるが、深さ1.5mまでは搅乱層的な層序を呈した上述のような結果であった。よって写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。



第14図 池上・曾根遺跡 第4地点掘削位置図



第15図 池上曾根遺跡 第4地点 調査坑断面図

第2節 豊中遺跡

I 調査に至る経過

泉大津市豊中・北豊中町及び東豊中町一帯に所在する豊中遺跡は、昭和30年代中頃に発見された遺跡である。^⑩本遺跡は、国道26号線及び土地区画整理事業の完成に伴い、土地の開発行為が増加し、現在までに市内で最も数多くの発掘調査が実施されている。その調査結果の概略は次のとおりである。

まず縄文時代後期の土器片が、埋積谷に位置する旧河道砂礫層内より発見されており、上流部より流動してきたものと思われる。この層内上部には、土師器や須恵器が含まれており、平安時代頃まで河川は存続していたものと考えられる。この部分は、土地区画整理事業が実施されるまで溜池であったが、それが築造されたのは、鎌倉時代もしくはそれに近い時期と思われる。このほか、古墳時代の集落が確認されている。集落は、竪穴住居と掘立柱建物とで構成されており、數棟単位で1グループをなしている。このようなグループが數カ所にあり、庄内式土器・布留式土器にかけての時期に属するものである。又、平安時代中頃の井戸や、鎌倉時代から室町時代に属する井戸等も検出され、大複合遺跡としてとらえられている。



第16図 豊中遺跡調査地点図

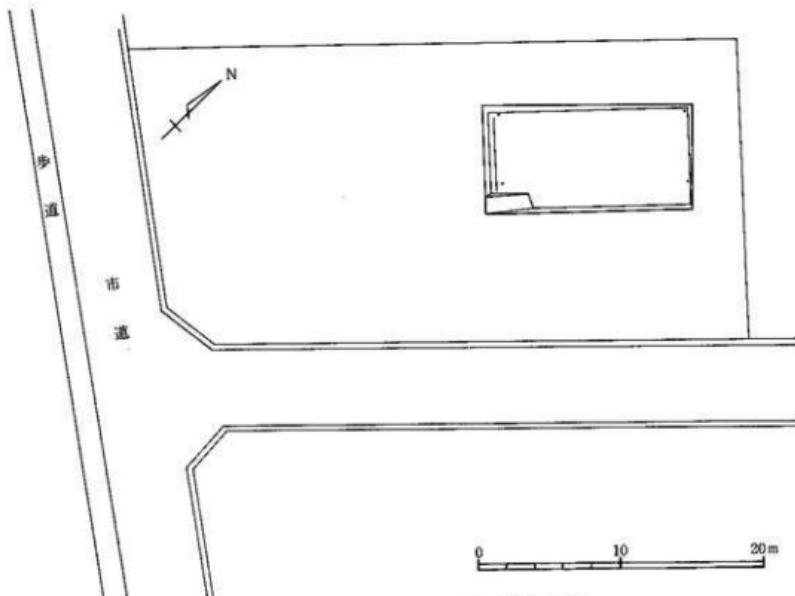
II 調査結果

第 1 地 点(東豊中町 2 丁目959-3 調査番号 T O - 34)

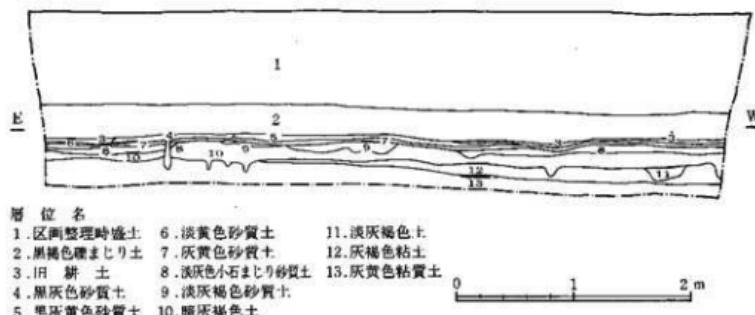
倉庫建設に先立つ調査である。敷地面積は、 864.73m^2 である。

敷地内に南北14.5m、東西7.5mの調査坑を設定し、重機により区画整理時盛土約0.8~1.0mを除去する。その後人力による掘削を行なった。遺構面と思われる層は、暗灰褐色土除去後にみら

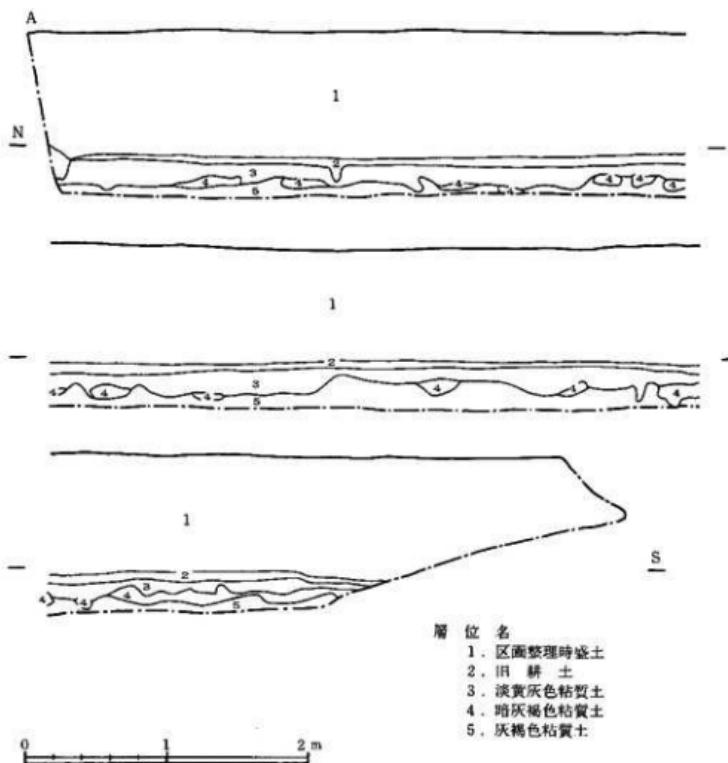
れる灰褐色粘質土で、大小合わせて18個のピット、溝状遺構が検出された。ピットは獨立柱建物2棟を構成していると思われ、以下に記述する。



第17図 畠中遺跡 第1地点振削位置図



第18図 畠中遺跡 第1地点 調査塙南側断面図



第19図 豊中遺跡 第1地点 調査坑東側断面図

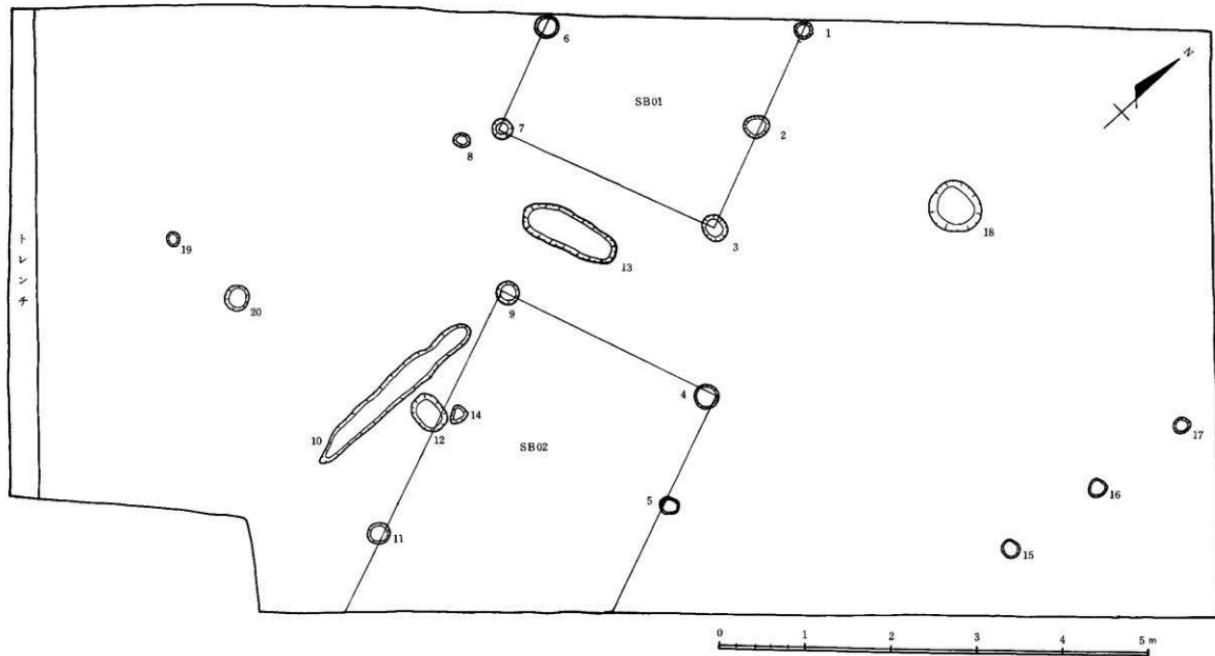
遺構

掘立柱建物

掘立柱建物は2棟検出された。

S B01は、東西1間(2.8m)南北2間以上の規模の建物で、南北柱間は1.5mである。棟方向はほぼ南北軸で20°東へ傾いている。振り方の平面形は円形及び橢円形で、柱の直径は約20~30cmである。埋土は暗灰褐色粘質土である。

S B02は、東西1間(2.8m)南北2間以上の規模の建物で、南北柱間は1.4mである。S B



第20図 番中遺跡第1地点遺構図

B01と規模をほぼ同じくするものと思われる。

また、調査区東端で一列に並ぶ3つのピットを検出した。調査区外に延びるものなので、全体の規模は定かでないが、掘立柱建物を構成していると思われる。ピット直径は約18~20cm、ピット間の寸法は約1.2mである。時期は埋土内の遺物より古墳時代と思われる。

溝状遺構

S-B02の西側に、幅約10~30cm、深さ約10cm、現存長約2m30の規模で、およそ南北方向の溝状遺構の痕跡が認められた。痕跡は途切れおり、流路・性格は不明である。埋土は灰褐色粘質土で、遺物は認められなかった。

ピット

上記以外の遺構としてピットが数個検出されたが、建物等復元には至らなかった。

ピット18は今回検出されたピット中最大のもので、直径約60cm、深さ約40cmを測る。ピット内からは庄内式の甕が検出された。埋土は灰黒色粘質土である。

遺物

出土遺物は、石器、縄文土器、古墳時代の庄内式甕、須恵器、土師器等である。

原則として器種別に分類し、個々の法量、胎土、色調、調整、出土場所(層)、備考について遺物観察表に示した。

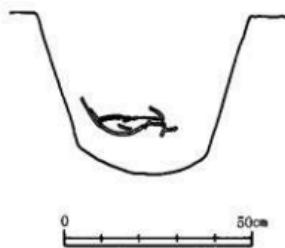
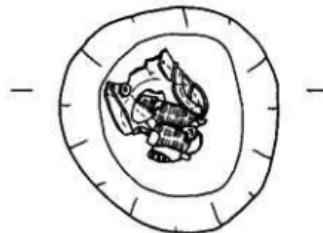
(1) 縄文土器 (39~41)

縄文土器は3点出土しており、いずれも口縁部に突帯と刻み目を有する晩期のものである。

39は、ゆるやかに外反し口縁部はほぼ直立している。突帯部は口縁部の近くに貼り付けられており、突帯の断面は、台形状である。

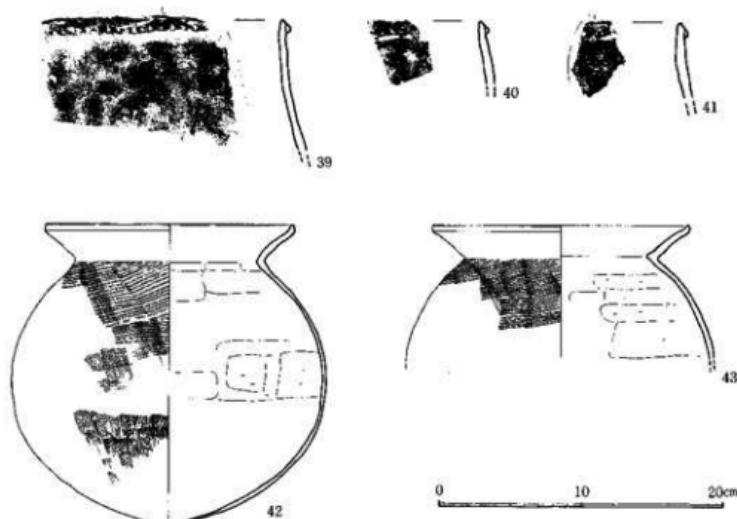
40は、やや内湾気味で立ち上がる。口縁端部は丸みをもつ。

41は、わずかに外反するが、口縁部はほぼ直立している。40、41とも、39と同様突帯は口縁部



第21図 豊中遺跡第1地点
ピット18遺物出土状況

近くに貼り付けられており、突帯の断面は台形状である。



第22図 墓中遺跡 第1地点出土遺物

(2) 庄内式土器 (42~43)

庄内式土器は2点とも表で、ピット18より(42)、ピット15より(43)がそれぞれ検出された。

42は、「く」字状の口縁部で、口頸部は外反し、口縁端部はやや丸みをもって立ち上がる。体部外面は細かいタタキ目とハケ目を併用し、体部下半部はタタキ目を残さず縱方向の細かいハケ目がみられる。内面は板状削りで、尖底を呈すると思われる。

43も、「く」字状の口縁部をもつ。口頸部はやや内弯しその後ゆるやかに外反する。口縁端部は尖り気味に立ち上がる。体部の整形は、外面に細かいタタキ目と部分的にはハケ目がみられる。内面調整は板状削りで、内面屈曲部に強い稜を有する。

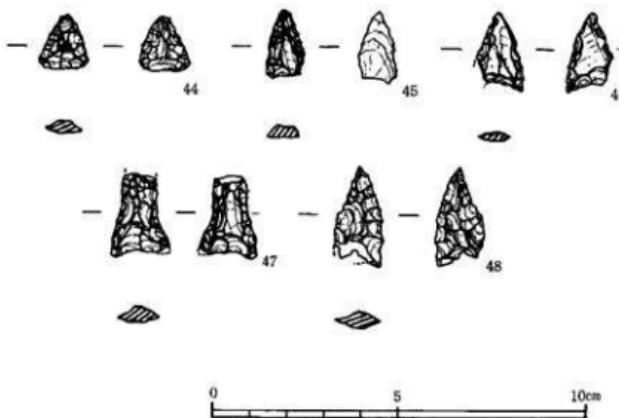
(3) 石器 (44~48)

調査区西端において、35個のサヌカイト片（石器、石核、剥片を含む）が出土している。

以下、概要を述べる。

44~48は石鏃である。

44は平基無茎式である。縦最大15.0mm、横最大13.0mm、最大厚は4.0mm、重さ0.5gである。



第23図 豊中遺跡第1地点出土遺物

45は、平基無茎式で、片面だけに調整がみられる。二等辺三角形の剥片を利用し、先端部の二辺を細かく刃部を形成している。縦最大20.0mm、横最大9.5mm、最大厚は3.5mm、重さ0.6gである。

46は凹基無茎式で、やや粗い刃離によって調整されている。縦最大21.0mm、横最大11.5mm、最大厚は2.1mm、重さ0.5gである。

47は凹基無茎式で先端部を欠損している。二等辺三角形の剥片を利用し、二辺を細かく加工している。縦最大23.0mm、横最大13.0mm、最大厚は4.3mm、重さ1.2gである。

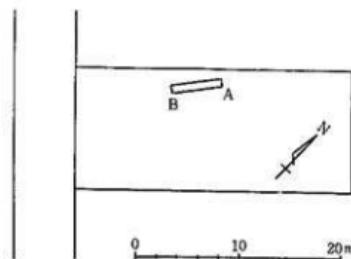
48は凹基無茎式で、概して調整は粗い。縦最大21.5mm、横最大13.2mm、最大厚は4.6mm、重さ1.1gである。

第2地點(東農中町2丁目961-33 調査番号8912)

共同住宅建設に先立つ調査である。敷地面積は、330.58m²である。

敷地の西端に幅1.0m、深さ1.1m、長さ5.4mの調査坑を設定し、重機による掘削ののち、人力により、壁面・床面を掘削し、壁面・床面観察を中心に調査を実施した。

層序は、上部から盛土約60cm、土地区画整

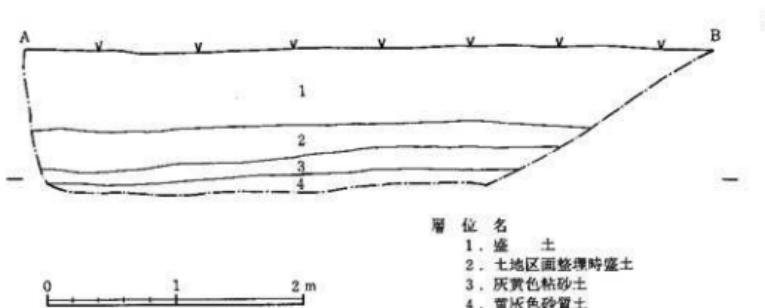


第24図 豊中遺跡 第2地点探査位置図

理時盛土約30cm、灰黄色粘砂土約14cm、黄灰色砂質土に至る。

遺構・遺物ともに認められず、写真撮影、断面図を作成して調査を終了した。

当該地付近では、概往の調査においても砂利層の堆積が顕著で、遺構の検出も認められない。



第25図 豊中遺跡 第2地点 調査塗断面図

第3節 虫取遺跡

I 調査に至る経過

泉大津市虫取の市立南公民館を中心に半径約800mの範囲で、土器片や須恵器片が散布しており、虫取遺跡として知られていた。この範囲内で、昭和53年に民間宅地開発が計画され、それに先立って発掘調査が、その費用を原作者負担で府教育委員会によって実施された。初めての本格的な調査によるメスが入れられたのである。その結果、縄文時代晩期の土器片をはじめ、弥生土器巣内第I様式新段階の土器を包含する土坑、6世紀後半及び10世紀後半の掘立柱建物跡等が発見され、弥生時代前期、古墳時代前期、平安時代中頃の集落が存在していたことを明らかにさせた。その後、昭和54年に、この遺跡内に所在する諸瀬池が、小学校（現楠小学校）建設のため埋め立てられることになった。池内の堤防沿いに須恵器片が多数散布していたので、市教育委員会で、池内の発掘調査を実施したのであるが、遺構は水の侵食や池底の改修等により削平されたようで残念ながら発見されなかった。昭和58年度には、学校用地となった旧諸瀬池の堤防をコンクリート擁壁にし、その一部を壊して市道が設けられることになったので、それらの工事に先立って市教育委員会で発掘調査を実施した結果、人工と思われる溝が検出された。その溝内から縄文土器である滋賀里式土器や長原式土器と共に伴して、弥生土器巣内第I様式新段階の土器が出土した。



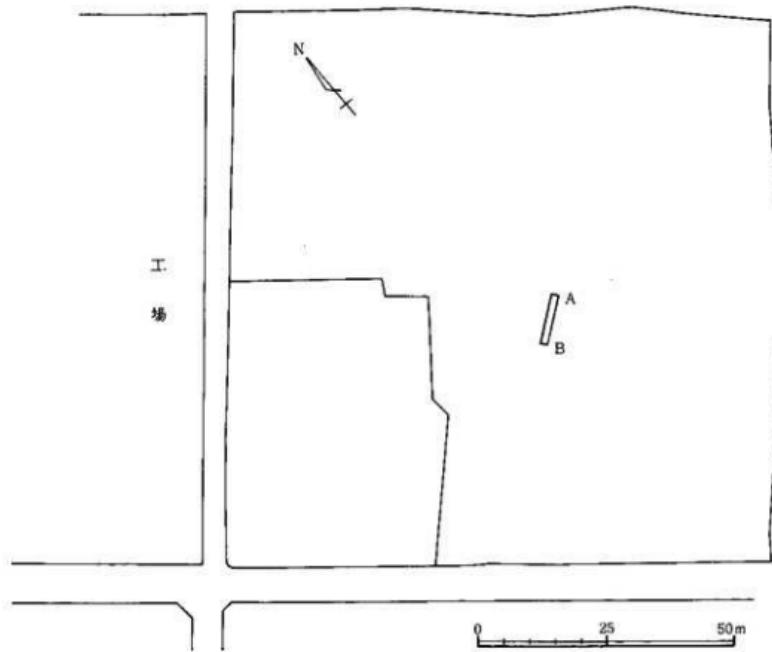
第26図 虫取遺跡調査地点図

II 調査結果

第 1 地 点(板原300、312-3、313 調査番号8906)

倉庫建設に先立つ調査である。敷地面積は、8,859.63m²である。

敷地に幅1.4m、深さ1.2m、長さ7.2mの規模の調査塁を設定し、重機による掘削の後、人力

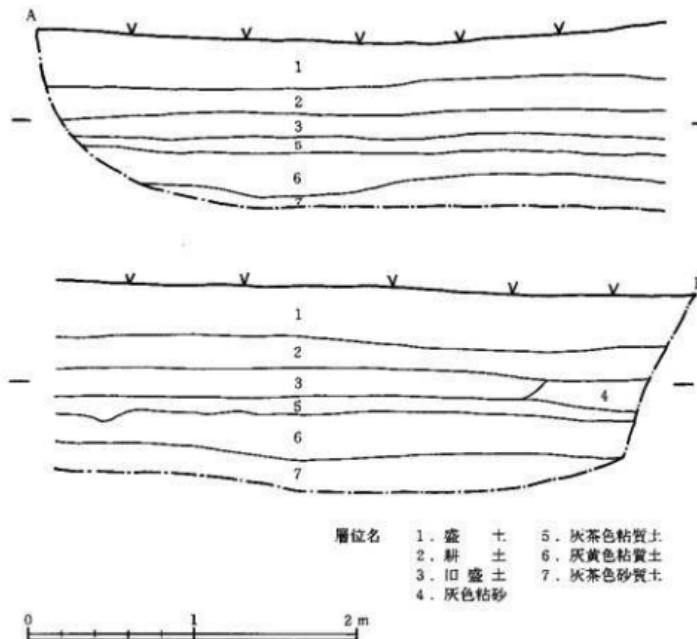


第27図 虫取遺跡 第1地点掘削位置図

により、壁面・床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

層序は、上部から盛土約30cm、耕土10~20cm、旧盛土約20cm、灰茶色粘質土約10cm、灰黄色粘質土12~26cmと続き、灰茶色砂質土に至る。

調査の結果、遺構・遺物等は確認されなかった。写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。



第28図 佐取遺跡 第1地点 考古断面図

第 2 地 点(板原270-3 調査番号8910)

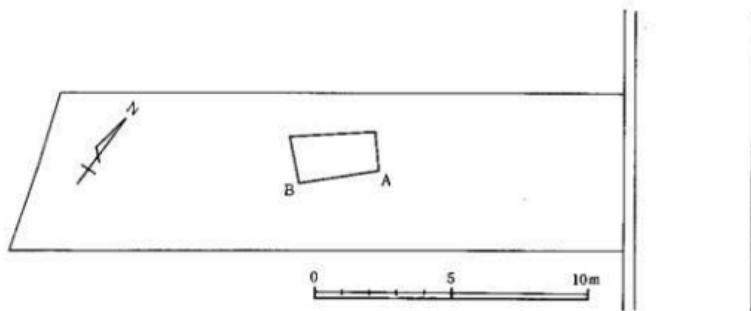
倉庫建設工事に先立つ調査である。敷地面積は122.91坪である。

敷地内のはば中央部に長さ3m、幅2m、深さ50cmの規模の調査範囲を設定し、人力にて掘削床面及び壁面観察による調査を実施した。

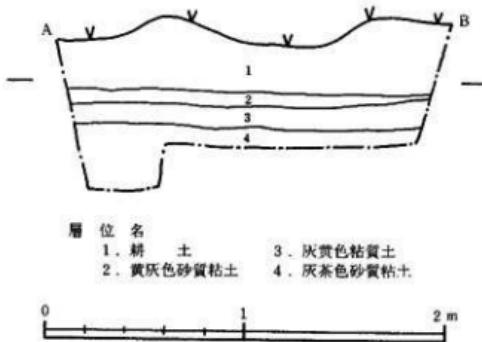
層序は上部から耕土22~37cm、黄灰色砂質粘土2~7cm、灰黄色粘質土8~11cm、灰茶色砂質粘土33cm以上となる。

遺構は確認できなかったが、上部より2層目の黄灰色砂質粘土層から、土師器片が少量検出された。しかし小片のため図示できるものではない。

当該地は、虫取遺跡の中心部より南西部に位置し、付近の田圃には土師器片・須恵器片が多数散布しているが、既往の調査でも遺構は検出されていない。よって、本調査でも、遺構の検出は見られなかったため、写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。



第29図 虫取遺跡 第2地点掘削位置図



第30図 虫取遺跡 第2地点 調査坑断面図

第 3 地 点(我孫子291-4 調査番号8911)

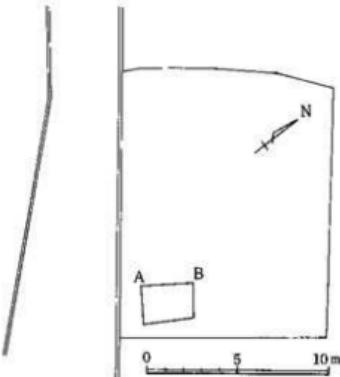
住宅建て替えに先立つ調査である。敷地面積は、170.11m²である。

敷地の東端に幅2.0m、深さ0.4~0.5m、長さ3.0mの規模の調査坑を設定し、人力により掘削、断面観察を中心とする調査を実施した。

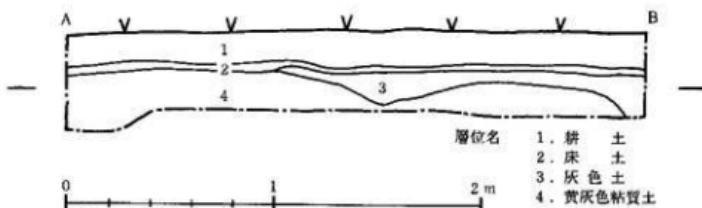
層序は上部から耕土約14cm、床土約4cm、灰色土2~20cmと続き、黄灰色粘質土に至る。灰色

土より瓦器片・土師器片・瓦片等が少量出土したが、いずれも小破片であるため図示し得ない。

当該地は小字名が「弘法寺」となっており、明治初頭まで寺が存在したことが明らかになっている。今回の調査地は同字の東端にかかるものであるが、それに関連する遺構・遺物の検出には至らず、写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。



第31図 虫取遺跡 第3地点 掘削位置図



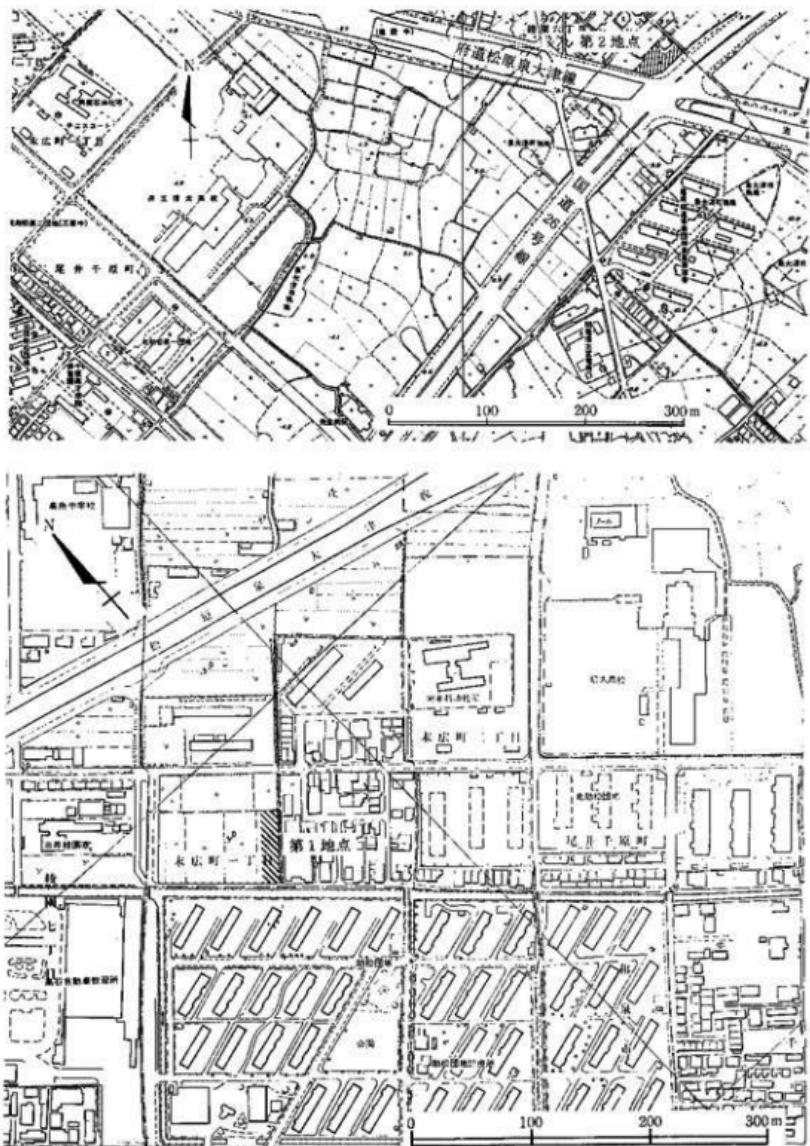
第32図 虫取遺跡 第3地点 調査塗断面図

第4節 大園遺跡

I 調査に至る経過

大園遺跡は、高石市西取石・綾園を中心に和泉市葛ノ葉・泉大津市綾井にまたがる大集落遺跡である。この遺跡も豊中遺跡・板原遺跡と同様、第2阪和国道（現国道26号線）建設に先立つ調査で高石市域に於て発見されたものであり、その成果は次のとおりである。

遺構として、円墳状の高まりを見せる裾部から、円筒埴輪・朝顔形埴輪や人物埴輪等が発見され^③、その後の調査で削平された帆立貝式古墳であることが判明し、「大園古墳」と名付けられた。又、埴仏や蓮華文軒丸瓦が出土し、白鳳寺院の存在も予想させる。更に、黄灰色土の所謂「地山」から旧石器のナイフ形石器も発見されており、本遺跡が幅の広い時代にわたっていることを物語っている。



第33図 大國遺跡調査地点図

II 調査結果

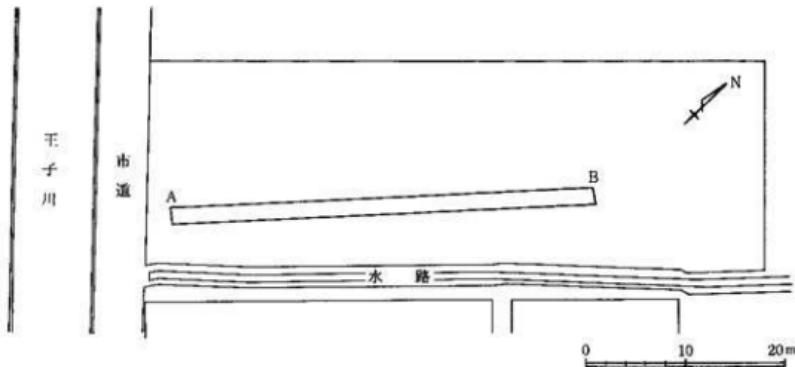
第1地點(末広町1丁目376 調査番号8908)

住宅建設に先立つ調査である。敷地面積は、1,287.22m²である。

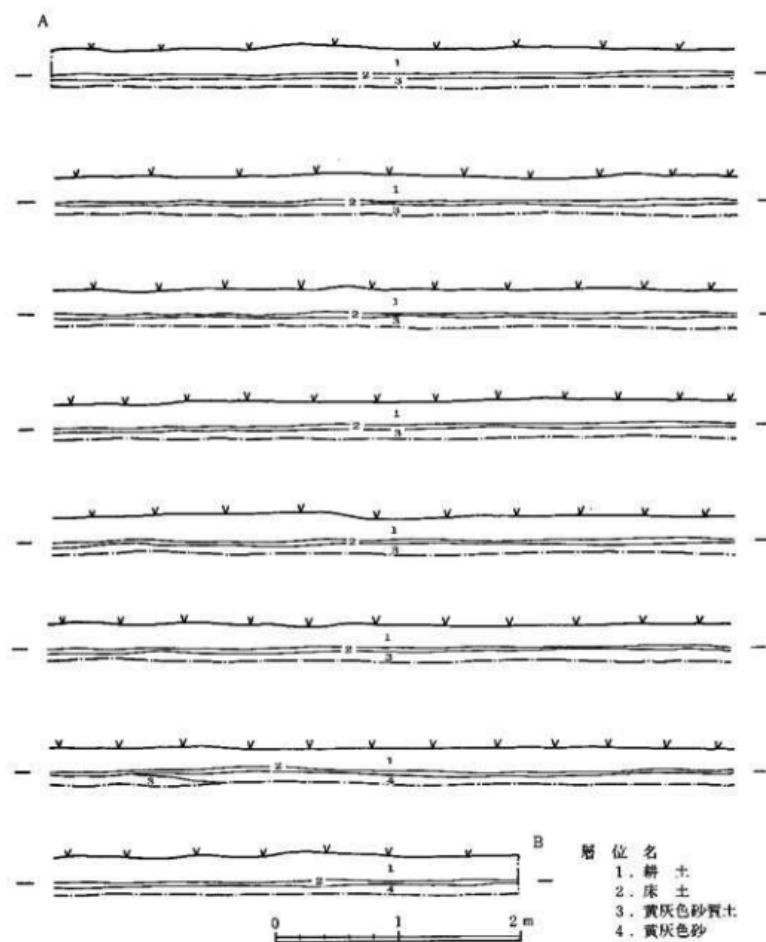
敷地のほぼ中央に幅1.8m、深さ0.3m、長さ43mの規模の調査坑を設定し、重機による掘削の後、人力により、壁面・床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

基本的な層序は上部から耕土約20cm、床土約4cm、黄灰色砂質土に至る。遺構は確認できず、遺物も検出されなかったので、写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。

当該地は大園遺跡の西端で、市道をはさみ王子川の北側に位置する。調査坑の南端では、床土直下で幅約8mにわたって砂利層がみられ、かつての王子川の川幅がこのあたりまであったと思われる。



第34図 大園遺跡 第1地点掘削位置図



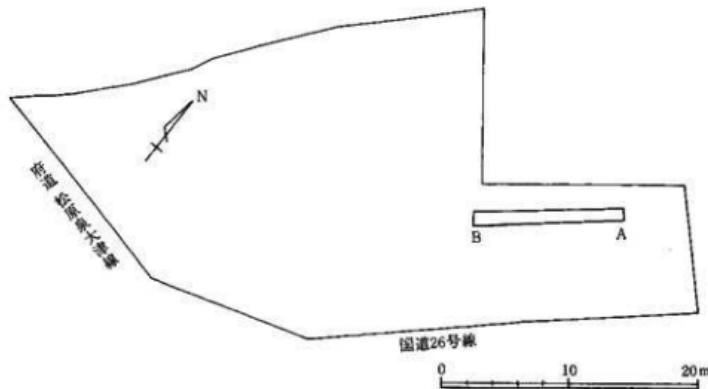
第35図 大園遺跡 第1地点 調査坑断面図

第2地点

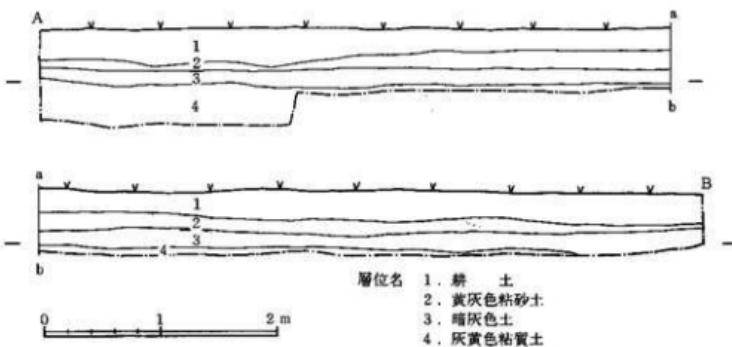
店舗建設に先立つ調査である。敷地面積は、828.33m²である。

敷地の中央やや西寄りに幅1.0m、深さ0.5~0.8m、長さ11.1mの規模の調査坑を設定し、重機による掘削の後、人力により壁面・床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

層序は上部から耕土16~34cm、黄灰色粘砂土2~16cm、暗灰色土10~16cm、灰黄色粘質土に至る。遺物は暗灰色土より、須恵器、土師器、瓦器片が少量みられたが、遺構は確認されなかった。写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。



第36図 大國遺跡 第2地点掘削位置図

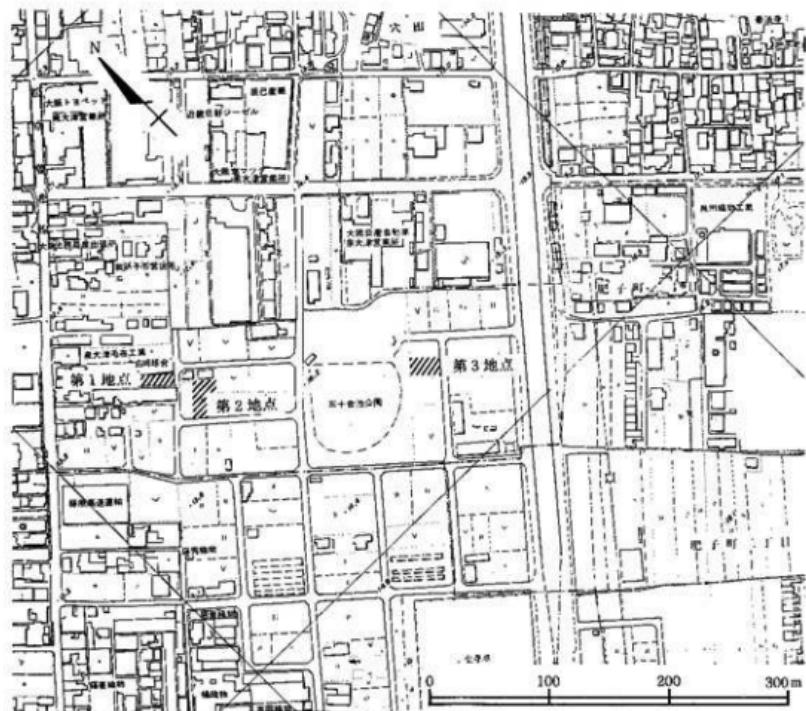


第37図 大國遺跡 第2地点 調査坑断面図

第5節 板原遺跡

I 調査に至る経過

泉大津市板原の水田地帯は、市の南部に位置し、南側は横尾川・松尾川の氾濫原を隔てて忠岡町と、又、東側は和泉市肥子町と接している。昭和50年代の中頃までは、目立った道路もなく、条里制施行の跡を示す水田が存在するのみであった。この地域に於て土地区画整理がなされ、第2阪和国道（現国道26号線）が建設されたことにより、整然とした街路が縦横に走り、それに沿って新しく土地開発が行なわれつつある。これらの工事に先立ち道路部分に於て発掘調査が実施されたが、特に第2阪和国道部分に於ては、多くの成果を得ることができた。[◎]



第38図 板原遺跡調査地点図

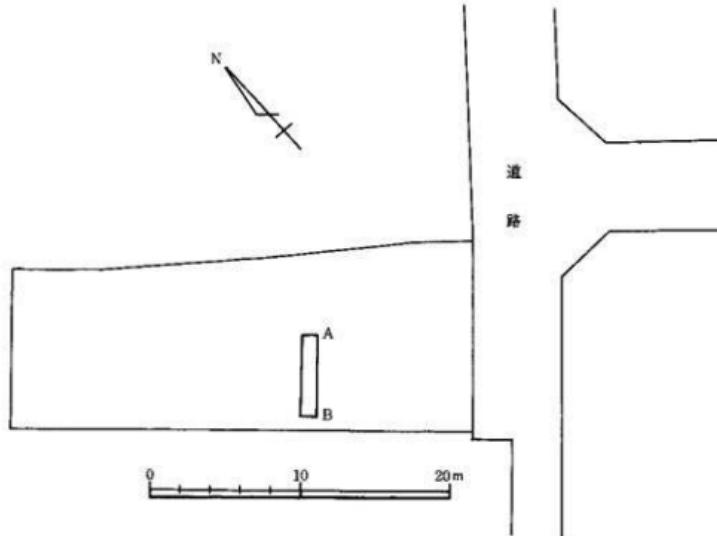
昭和52年に、豊中・古池遺跡調査会の試掘調査により、第2阪和国道敷地内から縄文土器・須恵器・瓦器・磁器等の破片が出土し、特に縄文土器は炭も同時に発見されたほか、各々の時代に属する遺構の存在が予想された。それにより、昭和54年度に府教育委員会が国道部分を全面調査した結果、縄文時代後期の自然流路及び土器、晩期の溝状遺構、ピット等と土器が発見された。弥生時代の遺構は検出されなかったが、僅かながら遺物が出土している。古墳時代前期の遺構や井戸、平安時代の建物のほか、鎌倉時代には、小規模な建物群が存在するなど、中世にまで及ぶ複合遺跡であることが判明した。以後は毎年工事に先立つ調査を実施しているが、きわだった成果はあがっていない。今後の調査に期待される。

II 調査結果

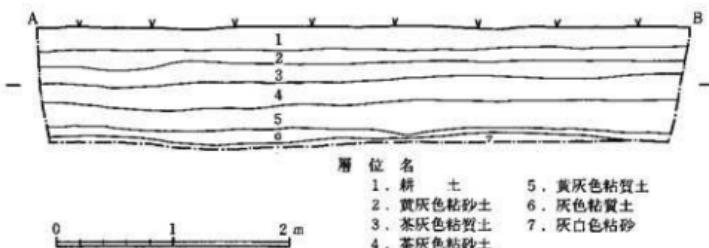
第1地點(穴田90 調査番号8904)

倉庫建設に先立つ調査である。敷地面積は353.91m²である。

敷地の南東部分に、幅1m、深さ1m、長さ5.6mの規模の調査区画を設定、重機にて掘削し、その後人力で壁面を削り、断面観察を中心とする調査を実施した。層序は、上部から耕土約20cm、



第39図 板原遺跡 第1地点掘削位置図



第40図 板原遺跡 第1地点 調査坑断面図

黄灰色粘砂土10~20cm、茶灰色粘質土12~18cm、茶灰色粘砂土約20cm、黄灰色粘質土16~28cm、灰色粘質土4~15cm、灰白色粘砂8cm以上となる。

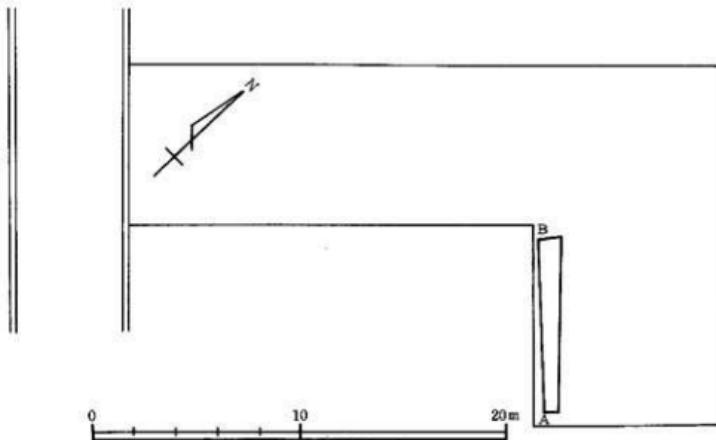
遺構は確認されなかつたが、上部から3層目の茶灰色粘質土と5層目の黄灰色粘質土には、土師器片と瓦器片が、又4層目の茶灰色粘砂土には、瓦器片が検出された。これらは、いずれも図示できるほどのものではなかつた。

遺物は出土層から考えて、二次堆積によるものと思われる。付近の既往調査結果とも考えあわせて、遺構は存在しないものと判断し、壁面の写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。

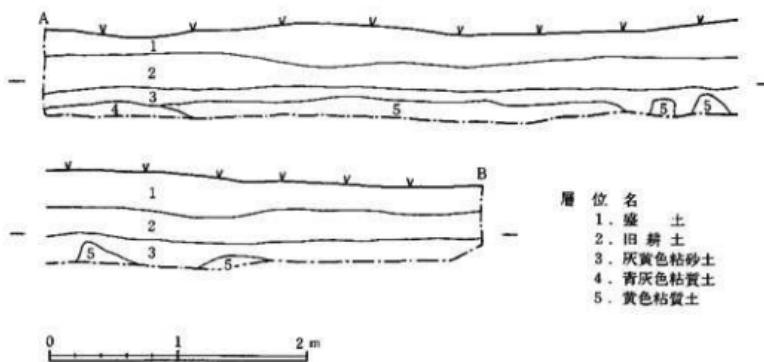
第 2 地 点(我孫子616、617-2 調査番号8914)

作業場建設に先立つ調査である。敷地面積は308.43m²である。敷地の東部に幅0.9m、長さ8.8m、深さ0.7mの調査坑を設定し、重機による掘削ののち、人力掘削により、壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。層序は上部から盛土14~30cm、旧耕土16~30cm、灰黄色粘砂土8~18cmと続き、黄色粘質がブロック状にみられる。東端では、灰黄色粘砂土の下に青灰色粘質土がみられる。

遺構・遺物はともに検出されず、写真撮影、断面図を作成して調査を終了した。



第41図 板原遺跡 第2地点掘削位置図



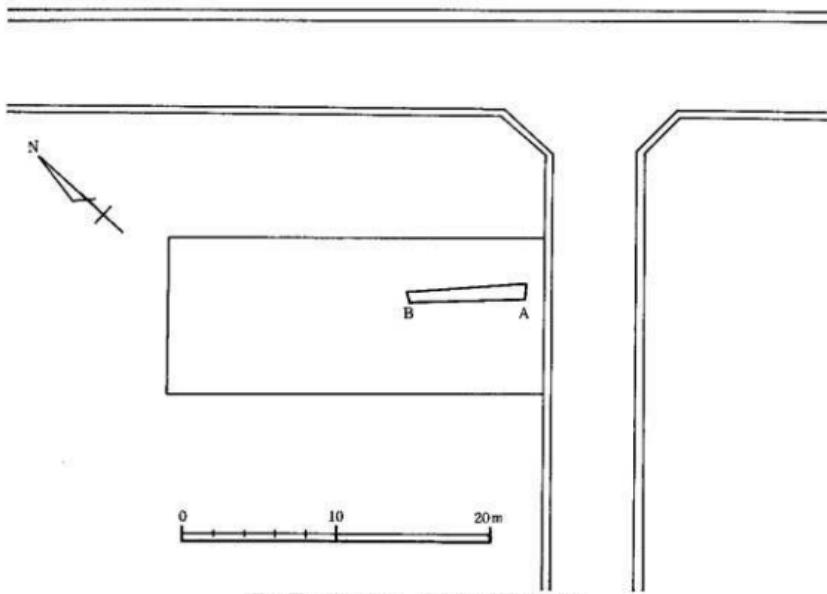
第42図 板原遺跡 第2地点 調査坑断面図

第 3 地 点(我孫子628 調査番号9003)

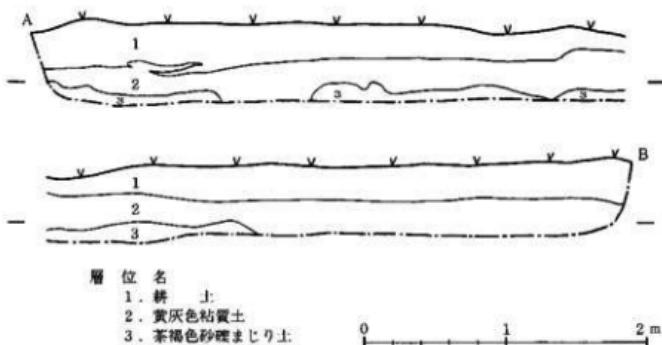
宅地造成に先立つ調査である。敷地面積は 250 m²である。敷地の中央やや南寄りに幅 1 m、長さ 8.3 m、深さ約 0.6 m の調査坑を設定し、重機による掘削ののち、入力掘削により、壁面・床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

層部は上部から耕土 16~34 cm、黄灰色粘質土 10~26 cm、茶褐色砂礫まじり土に至る。当該地は近年埋め立てられた池跡に隣接しており、地表下数 10 cm で砂礫層の堆積がみられ、旧地形の谷部分に位置すると思われる。

遺物・遺構は検出されず、写真撮影、断面図を作成して調査を終了した。



第43図 板原遺跡 第3地点掘削位置図



第44図 板原遺跡 第3地点 調査塗断面図

第6節 穴師遺跡

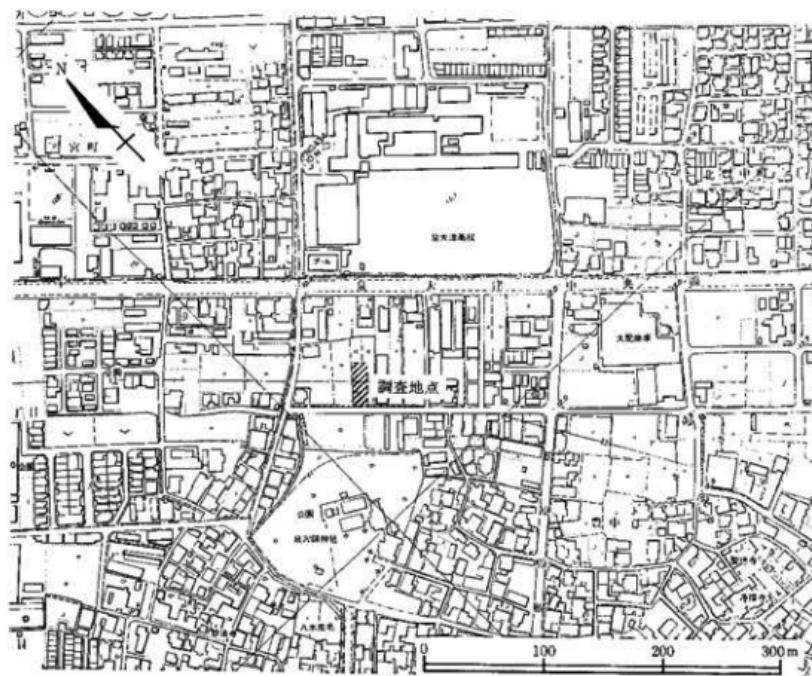
I 調査に至る経過

穴師遺跡は、泉穴師神社を中心に直径約200mの範囲の遺跡である。神社境内にある堺中公園や、付近の水田には土師器片・須恵器片・瓦器片等が散布しているため、周知の遺跡とされている。しかし、具体的なことは何一つ知られておらず、その実態は不明である。

泉穴師神社は、白鳳元年（672年）の創建とされ、和泉五社の第二社で延喜式内社に列し、古くから人々の崇敬を集めている。本殿及び摂社二社の本殿は国の重要文化財に指定されている。

以上のことから周辺部は古くから開けていたことは明らかであり、発見遺物から古墳時代以降の集落が存在していたものと思われる。

今回この遺跡の西部において住宅建設が計画され、これに先立ち予備調査を実施したものである。調査方法としてトレンチ掘りでは面的な追求は無理なので、グリッド掘りとした。



第45図 穴師遺跡調査地点図

II 調査結果

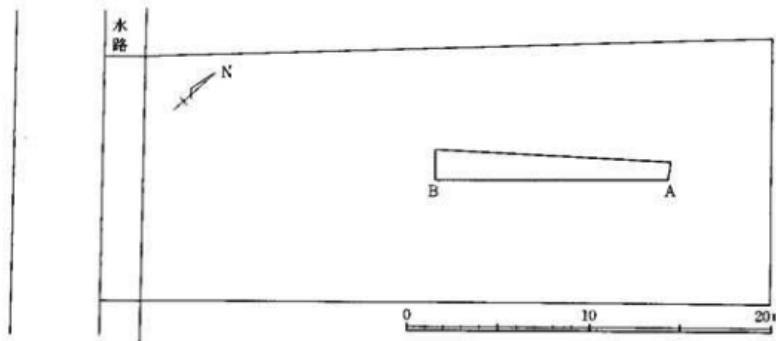
調査地點 (豈中668-3、669-1 調査番号9001)

共同住宅建設に先立つ調査である。敷地面積は、485.43m²である。

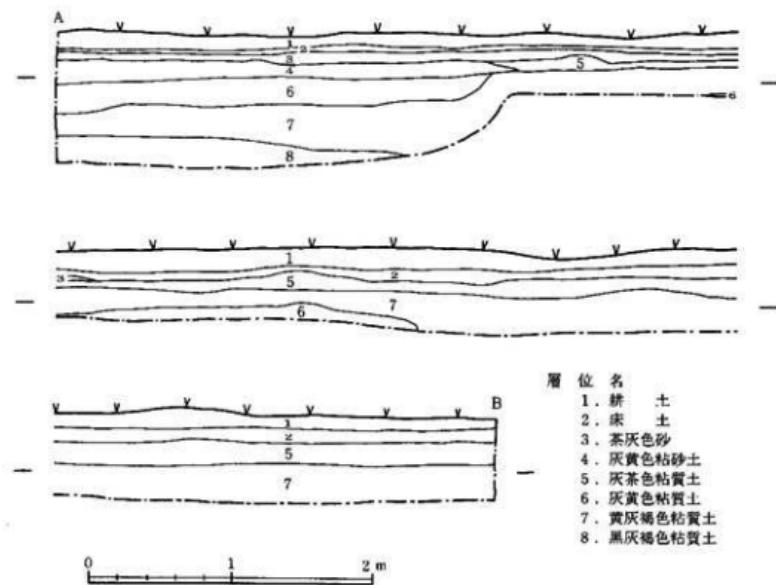
敷地のほぼ中央に幅1.0～1.7m、深さ0.4～0.9m、長さ12.7mの規模の調査坑を設定し、重機による掘削の後、人力により壁面・床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

基本的な層序は、上部から耕土6～14cm、床土2～10cm、茶灰色砂層となり、茶灰色砂は約12cmの厚さで、南へ行くに従って徐々に薄くなり、やがて消滅する。その下に、北では灰黄色粘砂土と南では灰茶色粘質土が約2～16cm、灰黄色粘砂土約20cm、黄灰褐色粘質土14～36cm、黒灰褐色粘質土に至る。

遺構・遺物はともに検出されず、写真撮影、断面図を作成して調査を終了した。



第46図 穴師遺跡 挖削位置図

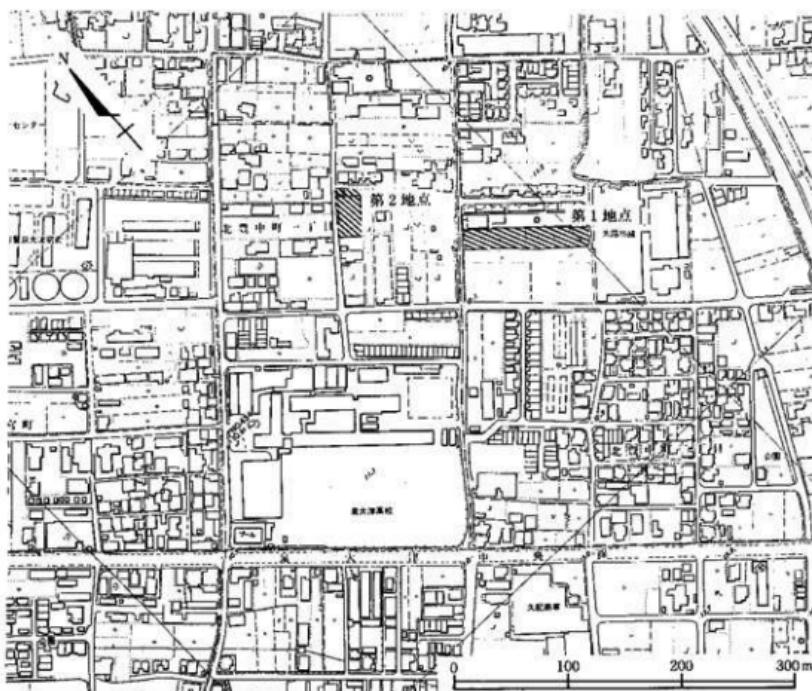


第47図 穴師遺跡 調査坑断面図

第7節 七ノ坪遺跡

I 調査に至る経過

七ノ坪遺跡は、北豊中町一帯に所在する弥生時代から古墳時代・中世に属する遺跡である。昭和32年の冬、府立泉州大津高等学校北門前の水田、通称「七ノ坪」において地下工事が行われた。その際、同校地歴部員によって土器片が採集されたのを契機として、「七ノ坪遺跡」と名付けられた。^⑤昭和43年以来同校校舎の増改築工事に先立ち、府教育委員会の実施した発掘調査や、同校地歴部による試掘調査、又、周辺部における府・市教委の調査で、弥生時代後期の溝・水田跡、古墳時代初期の溝・水田跡の他に4世紀前半の土坑、4世紀後半の住居跡・方形周溝墓、5世紀



第48図 七ノ坪遺跡調査地点図

前半の住居跡・木棺直葬墓・墓塚、中世の土塙・溝等が発見され、複合遺跡であることが知られている。今回報告するのは前年度に実施した調査で、前回報告できなかったものである。

II 調査結果

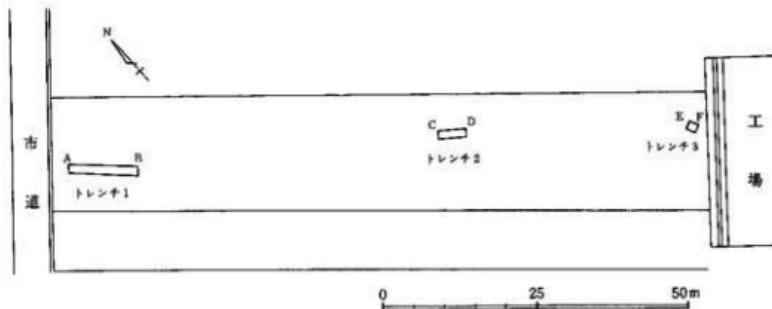
第1地點(北豊中町2丁目517-1、518-1 調査番号8905)

倉庫建設工事に先立つ調査である。敷地面積は2,100.13m²である。

敷地内の南東部に、幅1.4m、深さ40cm（一部70cm）、長さ11m〔トレンチ1〕、幅1.3m、深さ40cm、長さ4.4m〔トレンチ2〕、幅1.4m、長さ1.7m、深さ70cm〔トレンチ3〕の規模の調査区画を三箇所に設定した。三箇所とも重機による掘削を行い、その後人力で壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。トレンチ1の層序は上部から耕土約15cm、茶灰白砂質土（床土）約10cm、灰茶色砂質土約15cm、黄灰色粘質土約5cmで、この層は東に行くにしたがって薄くなり、東側部では見られない。その下は灰黄色粘質土約20cm、灰黄色砂質土7cm以上となる。トレンチ2の層序は、上部から耕土約13cm、乳灰色砂質土約5cm、黄茶色砂質土（床上）約5cm、灰茶色砂質土約8cm、暗灰色砂質土15cm以上となる。トレンチ3は、上部から耕土約15cm、灰茶色砂質土約7cm、灰色砂礫層約20cm、灰色砂約20cm、灰色細砂20cm以上となる。全体に耕土下に砂質土が見られ、特にトレンチ3では、砂礫層からの湧水が激しかった。

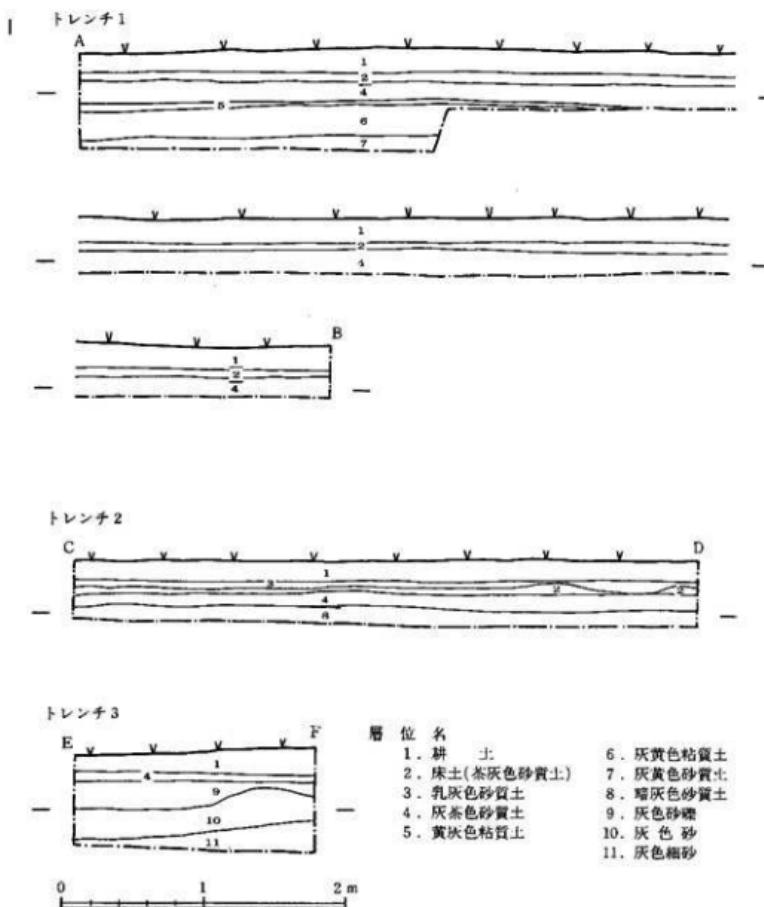
遺構は確認できず、遺物も検出されなかったので、写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。

当該地は、七ノ坪遺跡の北東部にあたり、既往調査でも、遺構等は検出されていない。砂利層



第49図 七ノ坪遺跡 第1地点掘削位置図

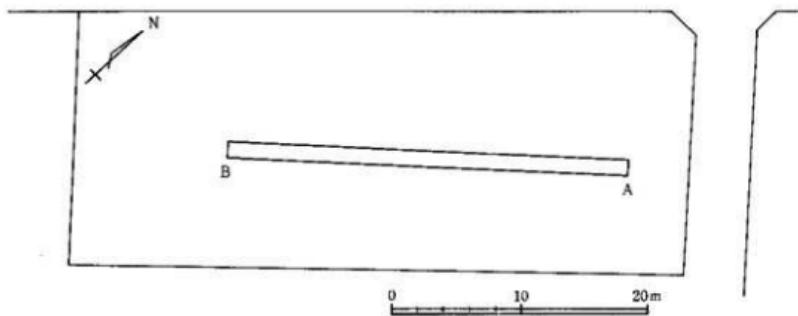
が見られることから旧地形は、谷状部分であったと思われる。



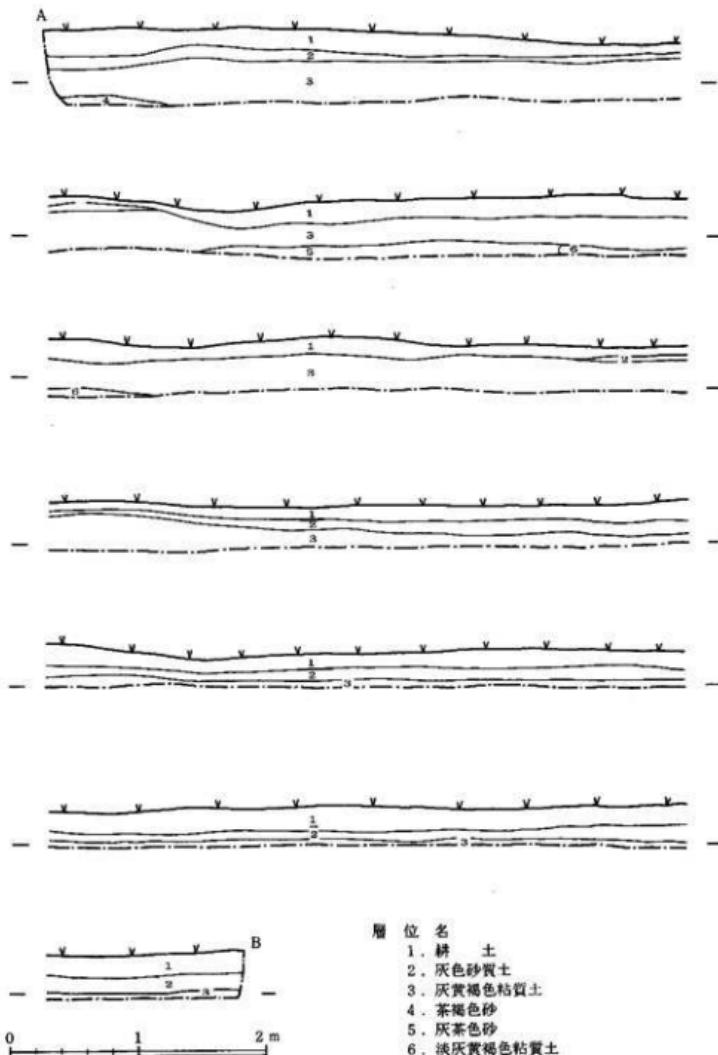
第50図 七ノ坪遺跡 第1地点 調査塙断面図

第 2 地 点(北豊中1丁目547、調査番号9004)

共同住宅建設に先立つ調査である。敷地面積は980.08m²である。敷地のほぼ中央に幅0.9m、深さ0.2~0.6m、長さ約31mの調査塙を設定し、重機による掘削の後人力で壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。層序は上部から、耕土4~20cm、灰色砂質土4~10cm、灰色砂質土は、南へ行くに従って徐々に薄くなり、やがて消滅するが、南側で再び2~10cmの厚さでみられる。その下は灰黄褐色粘質土に至る。中央部分では灰黄褐色粘質土に続き、灰茶色砂と、淡灰黄褐色粘質土がみられる。過去の調査において当該地の南側では、河川状遺構が検出されているが、今回の調査では遺物・遺構とともに認められず、写真撮影、断面図を作成し、調査を終了した。



第51図 七ノ坪遺跡 第2地点掘削位置図



第8節 穴田遺跡

I 調査に至る経過

昭和31年、穴田に於て、土製羽釜の底を打ち欠いて井戸枠として利用された井戸が発見され、[◎]中世の集落跡として周知されているが、出土場所や深さなど発見に関する詳細は不明である。その後調査も行なわれず、その範囲についても不確定であるまま今日に至っており、今後は機会ある毎に調査を実施し、その解明に努めなければならない遺跡の一つである。



第53図 穴田遺跡調査地点図

II 調査結果

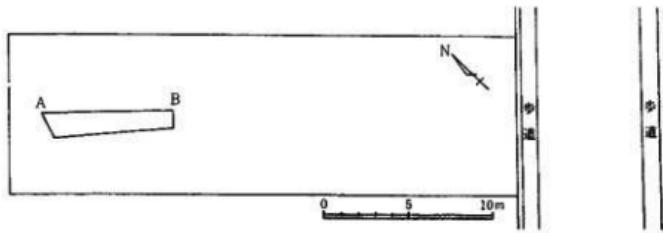
調査地點(我孫子61-1、調査番号9002)

事務所建設に先立つ調査である。敷地面積は、273.10m²である。

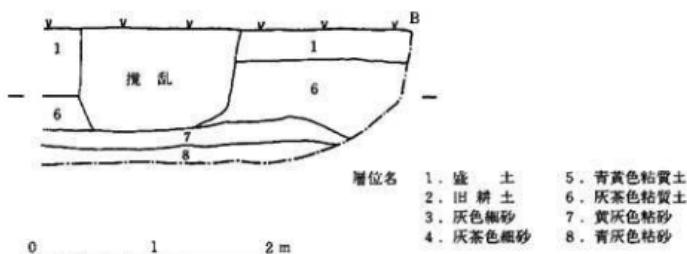
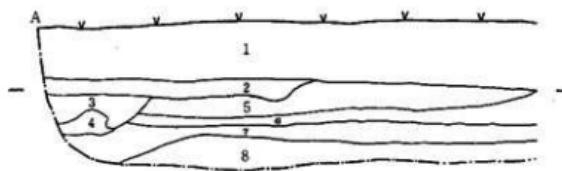
敷地の中央や東側に幅1.0~1.5m、深さ1.1m、長さ7.6mの規模の調査坑を設定し、重機による掘削の後、人力により表面を削り、断面観察を中心とする調査を実施した。

層序は上部から盛土24~54cm、中央やや南では、旧建物の基礎部分と思われる擾乱がみられる。その下に、Ⅲ耕土約14cm、灰茶色粘質土10~30cm、黄灰色粘砂6~32cm、青灰色粘砂に至る。東端では灰色細砂約20cm、灰茶色細砂2~20cm、Ⅲ耕土下がみられ、黄灰色粘砂に至る。

遺構・遺物ともに認められず、写真撮影、断面図を作成して調査を終了した。



第54図 穴田遺跡 掘削位置図



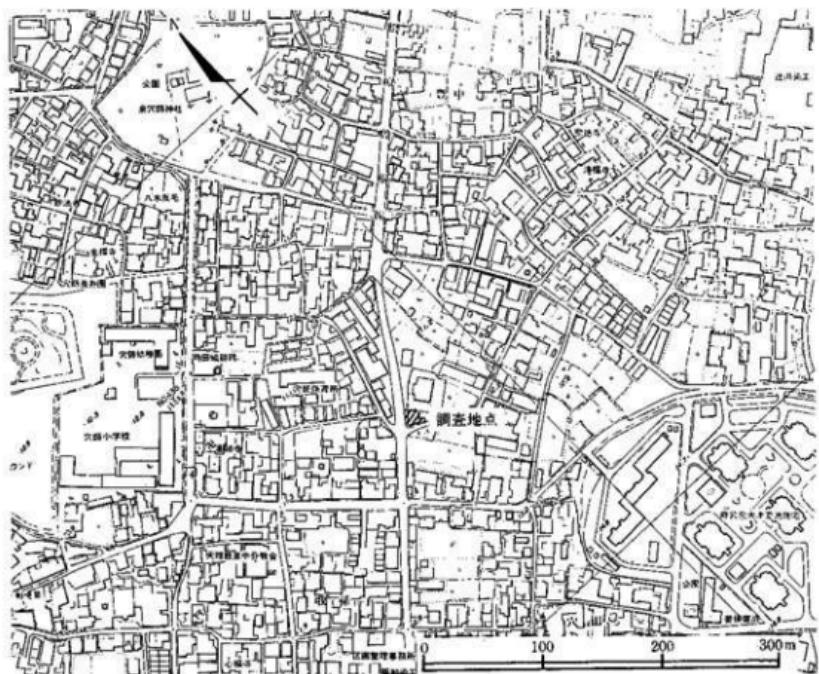
第55図 穴田遺跡 調査坑断面図

第9節 茹田城跡遺跡

I 調査に至る経過

大師保育所より南へ約150mの範囲は、小字名が「城」となっている。中世の史料によれば、享禄4年5月13日、三好元長が細川高国と戦った際、「我孫子茹田城ニ陣ス」とあり、この地に相当すると考えられる。また、周辺地域でも同様のことが伝えられており、中世の城館が存在していたと考えられる。

今回、同字のほぼ中心に於いて事務所建設が計画され、これに先立ち原因者側からの調査依頼により、試掘調査を実施した。同遺跡内における試掘調査は、これが初めてである。



第56図 茹田城跡調査地点図

II 調査結果

調査地点 (豊中952番2 調査番号8907)

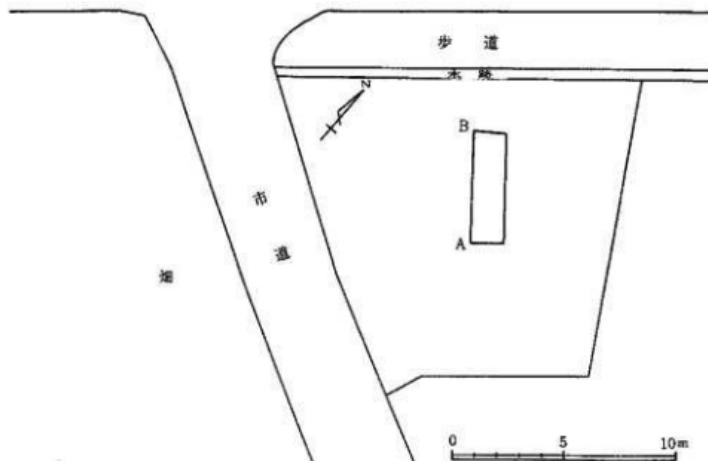
事務所建設に先立つ調査である。敷地面積は180.49m²である。

敷地のほぼ中央に、幅1.5m、深さ0.3~0.7m、長さ5.0mの調査坑を設定し、重機による掘削の後、人力により壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

層序は上部から、盛土10~24cm、耕土4~14cm、暗灰色砂質土2~10cm、茶灰色砂約6cm、東端では、2~10cmの茶灰色砂と続き、茶灰色砂に至る。

遺物は耕土より土師器片、瓦片が検出されたが、いずれも小破片であるため図示し得ない。

当該地は、小字名「城」のほぼ中心にあたるが、今回の調査では、これを裏付けるような遺構・遺物の検出には至らなかった。



第57図 荏田城跡 掘削位置図



第58図 荏田城跡 調査坑断面図

表5 遺物観察表

池上曾根遺跡第1地点

No.	口径(cm)	器高(cm)	胎土・色調	調 整	出土場所(層)	備 考
1	12.4	1.8 (残存高)	0.5mm以下の微砂粒を多く含む。 淡桜白色	口縁部外側から内面にかけてヨコナデ。 外面指押え後ナデ。	灰黄色砂質粘土	焼成: 良好 土師器 小皿

池上曾根遺跡第2地点

No.	口径(cm)	器高(cm)	胎土・色調	調 整	出土場所(層)	備 考
2	12.9	-	0.5mm以下の微砂粒多数 内面: 淡黄褐色 外面: 黄褐色	口縁部外・内面ヨコナデ 外面部内面タキ目 内面指押え・板状ナデ	灰黄色砂質粘土	焼成: 良好 土師器皿
3	15.4	-	0.1~0.2cmの石粒少數 0.5mm以下の微砂粒多数 内面: 淡桜灰色 外面: 淡桜色	口縁部外・内面ヨコナデ 外面部内面タキ目 内面指押え	灰黄色砂質粘土	焼成: 良好 土師器皿
4	15.5	-	0.1~0.2cmの白色石粒少數 淡桜灰色	口縁部外・内面強いヨコナデ 外面部内面タキ目	灰黄色砂質粘土	焼成: 良好 土師器皿
5	13.8	-	0.1cmの石粒 0.5mm以下の微砂粒 内面: 淡乳白色 外面: 淡桜色	口縁部外・内面強いヨコナデ 外面部内面タキ目後ハケ目 内面指押え	灰黄色砂質粘土	焼成: 良好 土師器皿
6	17.2	-	0.2cmの石粒 0.5mm以下の乳白色微砂粒 淡桜白色	口縁部外強いヨコナデ 口縁部内面ヨコナデ 外面部内面タキ目	灰黄色砂質粘土	焼成: 良好 土師器皿
7	18.0	-	0.2cmの黒色石粒 0.5mm以下の微砂粒 淡黄褐色	口縁部内・外面強いヨコナデ 外面部内面タキ目後ナデ 内面板状ナデ	灰黄色砂質粘土	焼成: 良好 土師器皿
8	14.8	-	0.2~0.3cmの石粒 0.1cm以下の微砂粒 内面: 乳白色 外面: 淡黄褐色	口縁部内・外面強いヨコナデ 外面部内面タキ目後ハケ目 内面指押え後板状ナデ	灰黄色砂質粘土	焼成: 良好 土師器皿
9	18.8	-	0.5mm以下の微砂粒 淡黄褐色	口縁部内・外面強いヨコナデ 外面部内面タキ目 内面板状ナデ	灰黄色砂質粘土	焼成: 良好 土師器皿
10	14.4	-	0.1cmの細砂 内面: 桜灰色 外面: 淡桜灰色	口縁部外ヨコナデ 外面部タキ目 内面磨擦激しく調整不明	灰黄色砂質粘土	焼成: 良好 土師器皿
11	12.8	16.5	0.1cmの細砂多数 明桜褐色	口縁部内・外面ヨコナデ 外面部タキ目・指押さえ 内面磨擦激しく調整不明	灰黄色砂質粘土	焼成: 良好 土師器皿
12	17.0	-	0.2~0.3cmの石粒 0.5mm以下の微砂粒 内面: 淡桜白色 外面: 淡桜黃色	口縁部内・外面強いヨコナデ 外面部内面指押え後ハケ目	灰黄色砂質粘土	焼成: 良好 土師器皿
13	12.8	15.0	0.1~0.2cmの細砂多数 黃褐色	外面部内面タキ目 内面指押え・板状・ナデ 外・内面ともに磨滅激しく調整不明	灰黄色砂質粘土	焼成: 良好 土師器皿
14	15.0	15.5 (残存高)	0.5mm以下の微砂粒多数 淡黄灰色	口縁部内・外面ヨコナデ 外面部内面タキ目 内面板状ナデ	灰黄色砂質粘土	焼成: 良好 土師器皿
15	17.7	18.5	0.3~0.4cmの小石 0.5mm以下の微砂粒 内面: 黑灰色 外面: 淡基色	口縁部内・外面ヨコナデ 外面部内面タキ目 内面板状ナデ・指押え	灰黄色砂質粘土	焼成: 良好 土師器皿

No	口徑(cm)	器高(cm)	胎土・色調	調整	出土場所(層)	備備
16	15.8	16.8	0.5cm以下の乳白色、黒灰色微砂粒 内面:淡橙色 外面:灰茶色がかった褐色	口縁部内・外面ヨコナデ 外面胴部タタキ目 外面胴部から底部にかけてタタキ目をナデ消し 内面板状ナデ	灰黄色砂質粘土	焼成:良好 土師器窯
17	15.5	-	0.2cmの小石 0.1cm以下 内面:淡橙色 外面:明緑色	口縁部内面指揮え 口縁部外指揮えヨコナデ 外面胴部タタキ目 内面指揮え後ナデ	灰黄色砂質粘土	焼成:良好 土師器窯
18	18.0	-	0.2cmの小石 0.5mm以下の微砂粒 内面:淡緑茶褐色 外面:灰茶褐色	口縁部内・外面強いヨコナデ 外面胴部タタキ目 内面剥離して調整不明	灰黄色砂質粘土	焼成:良好 土師器窯
19	23.4	-	0.1cm以下の細砂 0.5mm以下の微砂粒 淡緑茶色	口縁部内・外面強いヨコナデ 外面胴部タタキ目 内面板状ナデ	灰黄色砂質粘土	焼成:良好 土師器窯
20	20.8	-	0.2cmの小石 0.1cm以下の微砂粒多数 内面:緑色がかった乳白色 外面:緑灰色	口縁部内・外面強いヨコナデ 外面胴部タタキ目 内面指揮え・板状ナデ	灰黄色砂質粘土	焼成:良好 土師器窯
21	18.1	-	0.1~0.2cmの細砂 0.5mm以下の黒灰色、乳白色砂 内面:淡緑青白色 外面:棕黃褐色	口縁部内・外面強いヨコナデ 外面胴部タタキ目 内面指揮えの後板状ナデ	灰黄色砂質粘土	焼成:良好 土師器窯
22	17.2	21.3 (残存高)	0.1cm以下の微砂粒多数 淡緑茶色	口縁部内・外面強いヨコナデ 外面胴部タタキ目 内面板状ナデ、指押え	灰黄色砂質粘土	焼成:良好 土師器窯
23	14.6	-	0.5mm以下の微砂粒 淡黄褐色	口縁部内・外面強いヨコナデ 外面胴部タタキ目 内面板状ナデ	灰黄色砂質粘土	焼成:良好 土師器窯
24	18.0	-	0.1cmの細砂多数 内面:淡灰茶色 外面:暗緑色	口縁部内面強いヨコナデ 外面胴部タタキ目 外面胴部から底部タタキ目後板状ナデ 内面剥離して調整不明	灰黄色砂質粘土	焼成:良好 土師器窯
25	16.3	-	0.2~0.3cmの小石 0.5mm以下の微砂粒 實灰褐色	口縁部内・外面強いヨコナデ 外面胴部タタキ目 内面指揮え・板状ナデ	灰黄色砂質粘土	焼成:良好 土師器窯
26	20.4	21.3	0.1cmの細砂多数 内面:黒灰色 外面:實灰白色	口縁部内・外面強いヨコナデ 外面胴部タタキ目 内面板状ナデ	灰黄色砂質粘土	焼成:良好 土師器窯 外表面部から底部にかけてスス付着
27	13.8	-	0.2cmの小石 0.5mm以下の微砂粒 石英・長石 淡灰褐色	口縁部内・外面ヨコナデ 外面板状ナデ指押え 内面指揮え	灰褐色砂質土	焼成:良好 土師器窯
28	23.2	-	0.1~0.2cmの細砂 0.5mm以下の微砂粒多数 内面:灰茶褐色 外面:明緑色	口縁部内・外面ヨコナデ 内面指揮え・ナデ	灰黄色砂質粘土	焼成:良好 土師器窯 竹管円形浮文
29	24.0	-	0.1~0.2cmの細砂 0.5mm以下の微砂粒 長石・石英 乳灰白色	内面指揮え 外面指揮え・ナデ	灰黄色砂質粘土	焼成:良好 土師器窯 竹管円形浮文
30	18.8	-	0.5mm以下の乳白色微砂粒 黃褐色	口縁部内・外面強いヨコナデ 外面ナデ 内面指揮え痕	灰黄色砂質粘土	焼成:良好 土師器二重口縁壺

No	口径(cm)	器高(cm)	胎土・色調	調整	出土場所(層)	備考
31	16.8	-	0.1cm以下の細砂 0.5mm以下の微砂粒 石英、金ウンモ 黄茶褐色	口縁部内・外面強いヨコナデ 外周脚部から胴部にかけてラミガキ 内面指押え痕	灰黄色砂質粘土	焼成：良好 土師器叢
32	13.7	-	0.2~0.3cmの小石、金ウンモ 明燈褐色	口縁部内・外面強いヨコナデ 外周体部へラミガキ 内面ナダ	灰黄色砂質粘土	焼成：良好 土師器高杯(杯部)
33	20.9	-	0.1cmの小石、長石、 石英、 淡黄褐色	口縁部内・外面ヨコナデ 外周体部指押えのちナダ 内面ヨコナデ	灰黄色砂質粘土	焼成：良好 土師器高杯(杯部)
34	13.0 (底径) (残存高)	6.7 (残存高)	0.5mm以下の微砂粒 暗茶褐色	外周柱状部タテヘラ磨き 内面ナダ	灰黄色砂質粘土	焼成：良好 土師器高杯(脚部)
35	15.0 (底径) (残存高)	10.9 (残存高)	0.5mm以下の微砂粒多数 長石、石英 淡茶褐色	外周柱状部タテヘラ磨き 内面指押え、柱状部しばり	灰黄色砂質粘土	焼成：良好 土師器高杯(脚部)
36	15.4 (底径) (残存高)	9.1 (残存高)	0.1cmの細砂 0.5mm以下の墨灰色砂粒 尾白 黄褐色	外周柱状部ハケ目 内面ヨコナデ	灰黄色砂質粘土	焼成：良好 土師器高杯(脚部)
37	24.4	17.4	0.1cmの細砂 明燈褐色	外周タテヘラ磨き 内面指押え	灰黄色砂質粘土	焼成：良 土師器高杯
38	18.2	13.0	0.1cmの細砂 0.5mm以下の微砂粒多数 金ウンモ 明燈色	外周柱状部ハケ目 内面柱状部しばり	灰黄色砂質粘土	焼成：良 土師器高杯

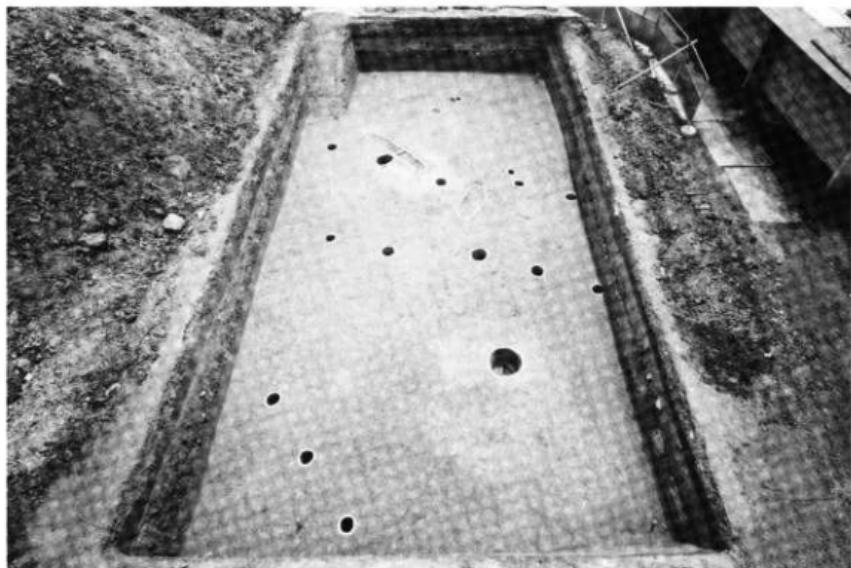
豊中遺跡第1地点

No	口径(cm)	器高(cm)	胎土・色調	調整	出土場所(層)	備考
39	-	9.3 (残存高)	0.1~0.2cmの小石 0.1cmの黒色石粒 暗茶褐色	内面指おさえ 外周ナダ	Pit19東隣 灰褐色土	縄文土器 深鉢 (長原式か)
40	-	4.5 (残存高)	0.1~0.2cmの小石 石英 淡茶褐色	内外面ナダ	灰褐色土	縄文土器 深鉢 (長原式か)
41	-	5.4 (残存高)	0.3cmの小石 石英、長石 茶褐色	内外面ナダ	灰褐色土	縄文土器 深鉢 (長原式か)
42	17.8	-	0.5mm以下の微砂粒 金ウンモ、角閃石、石英、 長石 淡茶褐色	口縁部内・外面強いヨコナデ 内面板状削り 外周タタキ目後ハケ目	Pit15 暗灰褐色土	庄内甕 焼成：良好
43	17.4	21.1 (残存高)	0.1cmの細砂 0.5mm以下の微砂粒 石英、長石、金ウンモ 淡茶褐色	口縁部内・外面強いヨコナデ 内面板状削り 外周体部上位タタキ目後 ハケ目 体部中央から底部にかけて縱方向のハケ目	Pit18 灰黑色粘質土	庄内甕 焼成：良好 内外面スス付着

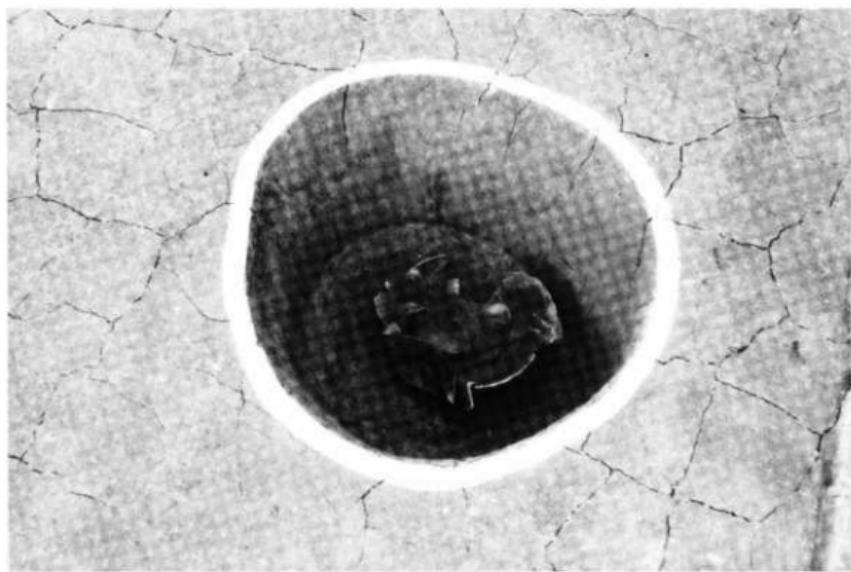
参考文献

- ① 高石市教育委員会 「大園遺跡発掘調査概要」 1976・3
- ② 和泉市史編纂委員会 「和泉市史・第一巻」 1965・10
- ③ 和氣道跡調査会 「和氣」 1979・3
- ④ 大阪府教育委員会 「第二版和国道内遺跡発掘調査概報－板原遺跡－」 1980・3
- ⑤ 豊中・古池遺跡調査会 「豊中・古池遺跡発掘調査概報 その三」 1976・3
- ⑥ 泉大津市教育委員会「泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報2」 1984・3
- ⑦ 泉大津市教育委員会「泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報3」 1985・3
- ⑧ 泉大津高校地歴部 「和泉の古代遺跡」 和泉考古学5号 1961・3
- ⑨ 大阪府「弥生文化と農耕」 「大阪府史」 第一巻 1983・3
- ⑩ 調査時点では要池であったが、古池遺跡となり、現在は豊中遺跡として遺跡分布図に記載されている。
- ⑪ 大阪府教育委員会 「七ノ坪遺跡発掘調査概要」 1974・3
- ⑫ 大阪府教育委員会 「七ノ坪遺跡発掘調査概要III」 1984・3
- ⑬ 泉大津市教育委員会 「豊中遺跡発掘調査概要III」 1979・3
- ⑭ 大阪府教育委員会 「要池遺跡発掘調査概要I」 1975・3
- ⑮ ④と同じ
- ⑯ ⑥・⑬と同じ
- ⑰ ②・⑧と同じ
- ⑲ ⑯と同じ
- ⑳ ⑧と同じ
- ㉑ ⑤と同じ
- ㉒ ⑬と同じ
- ㉓ ⑦と同じ
- ㉔ 大阪府教育委員会 「大園遺跡・豊中遺跡範囲確認調査概要」 1974・3
- ㉕ 高石市教育委員会 「大園遺跡発掘調査概要」 1977・3
- ㉖ ④と同じ
- ㉗ ⑯と同じ
- ㉘ ⑪と同じ
- ㉙ 泉大津市教育委員会 「七ノ坪遺跡発掘調査概要II」 1982・3
- ㉚ 泉大津高校地歴部 「和泉考古学・別冊考古学調査報告1」 1958・2

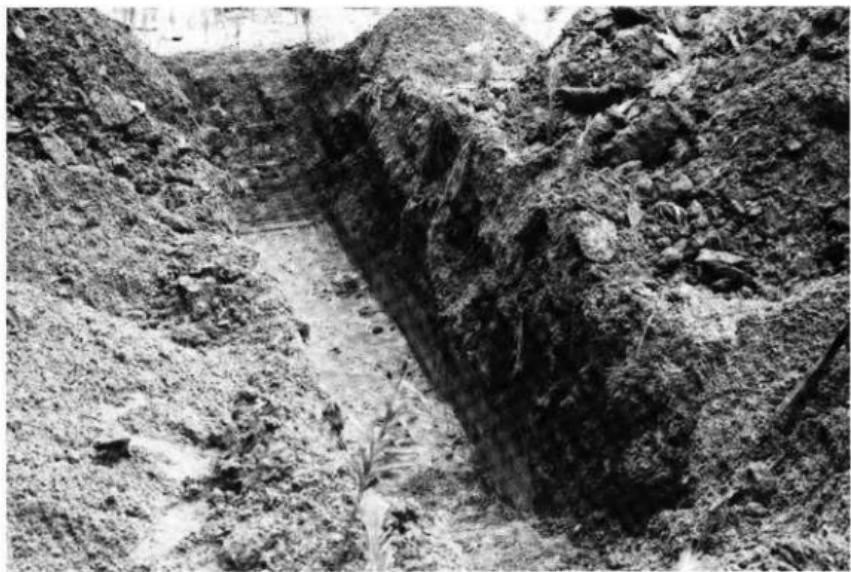
図版



豊中遺跡第1地点全景



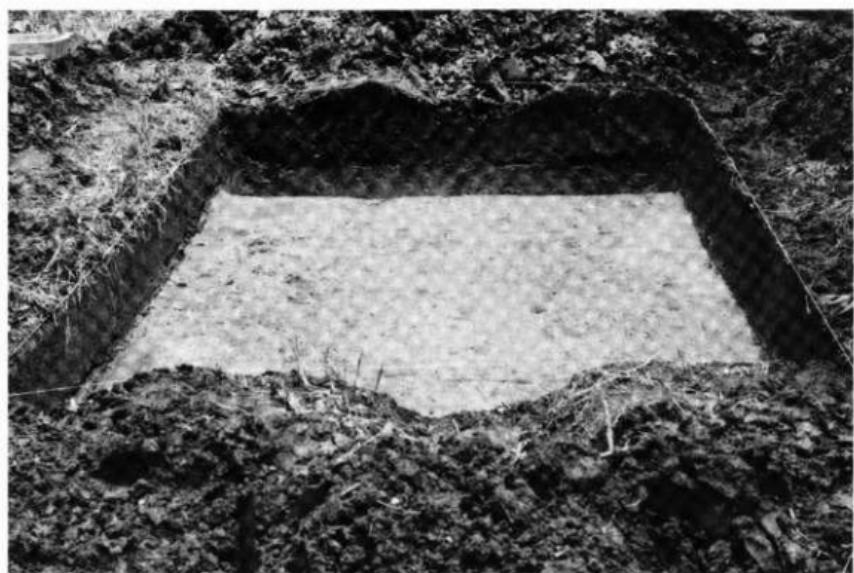
豊中遺跡第1地点ピット18



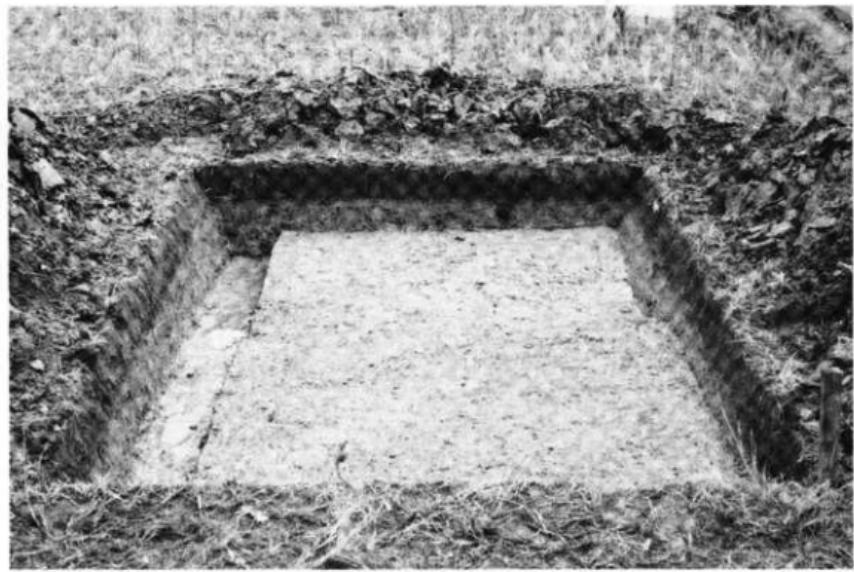
豊中遺跡第2地点調査坑



池上・曾根遺跡第2地点遺物出土状況



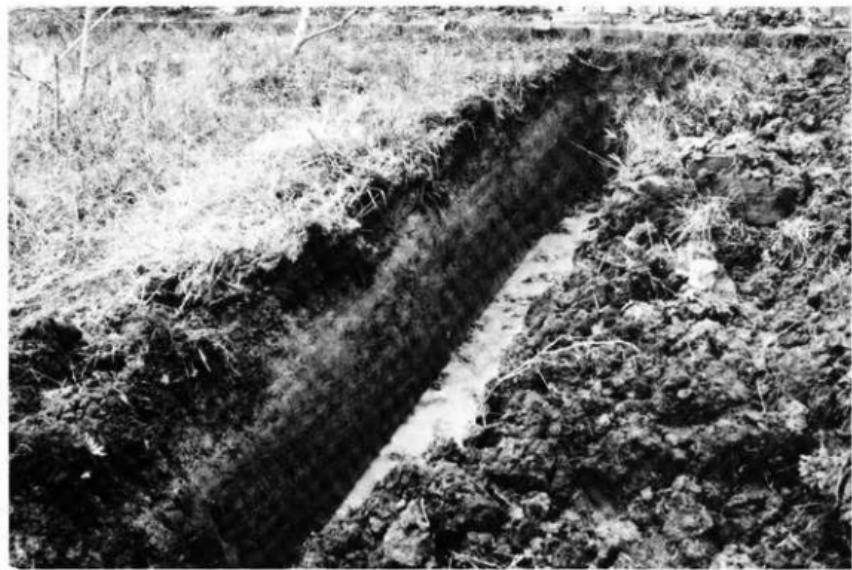
虫取遺跡第2地点調査坑



虫取遺跡第3地点調査坑



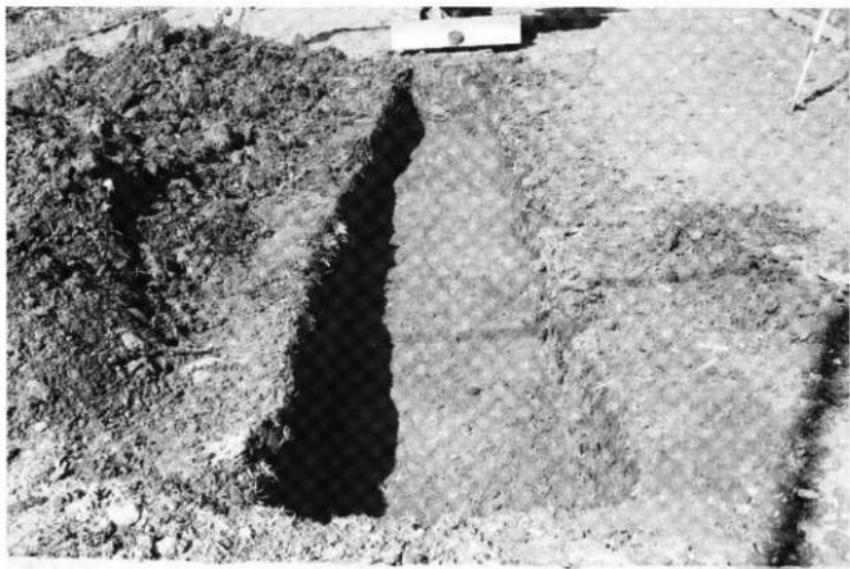
大團遺跡第1地点調査址



板原遺跡第1地点調査址



板原遺跡第2地点調査址



板原遺跡第3地点調査址



穴師遺跡調査塀



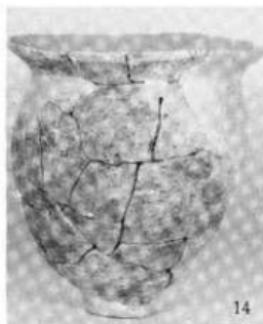
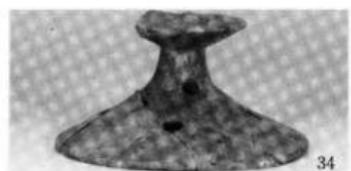
七ノ坪遺跡第1地点調査塀



穴田遺跡調査塁



莉田城跡調査塁



14



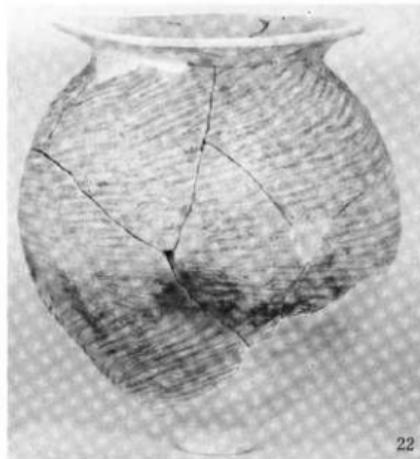
13



16



26



22

池上・曾根遺跡第2地点出土品

泉大津市文化財調査報告20
泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報 8

1990年3月

発行 泉大津市教育委員会
編集 社会教育課
泉大津市東雲町9番12号

印刷 和泉出版印刷株式会社
和泉市池上町460-33

